授業科目名： こどもと健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：井崎美代 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・健康		
授業のテーマ及び到達目標 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。			
授業の概要 保育者として理解しておきたい領域「健康」の内容について学修します。具体的には、子どもの発達特性と基本的な生活習慣及び健康についての基本的な事柄や子どもを取り巻く状況について学修し、保育者としての資質を養うことを内容としています。			
授業計画 第1回：領域「健康」にかかわる現代的課題と動向 第2回：乳幼児期の発育発達について 第3回：乳幼児期の生活リズムと基本的な生活習慣について 第4回：乳幼児期の食生活について 第5回：乳幼児期の安全について 第6回：乳幼児期の運動発達について 第7回：運動遊びについて 第8回：まとめ（視聴覚教材による保育現場の現状からの学びおよび授業の振り返り）			
テキスト『保育内容「健康」』川邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版 内閣府、文部科学省、厚生労働省）			
学生に対する評価 「課題・レポート60%、発表内容・方法40%」			

授業科目名： こどもと人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：香崎智郁代 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・人間関係		
<p>授業のテーマ及び到達目標 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。(2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な内容と指導上の留意点を理解する。(3) 幼稚園教育の評価の考え方を理解し、集団を通して、様々な人と関わる経験と小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解する。</p>			
<p>授業の概要 領域「人間関係のあり方」を理解し、心身の発達及び家族、保育者、仲間などの関係性を考える。幼稚園等の集団保育場面で、他の人々と親しみ、自立心を育てるとともに、道徳心や規範意識の芽生えを育み、他者とかかわり、協力して物事に取り組んでいくための具体的な保育内容や方法について、講義の他、事例をもとにして学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：領域「人間関係」のねらいと人間関係の基礎知識</p> <p>第2回：現代社会と人間関係</p> <p>第3回：乳児期の人間関係</p> <p>第4回：幼児期の遊びや生活の中で見られる人間関係 事例を通じた検討</p> <p>第5回：関係性の育ちや個と集団の育ち 事例を通じた検討</p> <p>第6回：ロールプレイを通して保護者との関係性を考える</p> <p>第7回：保育者同士の関わり方</p> <p>第8回：人間関係に関わる現代的課題</p>			
<p>テキスト</p> <p>領域「人間関係」、田宮縁著、萌文書林、2018年。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>保育内容「人間関係」岩立京子、西坂小百合編著、光生館、2018年。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各授業の小課題（30%）、レポート（70%）</p>			

授業科目名： こどもと環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：香崎智郁代 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・環境		
<p>授業のテーマ及び到達目標 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。(2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導上の留意点を理解する。(3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解し、小学校以降の教科とのつながりを理解する。</p>			
<p>授業の概要 子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。また、子どもの発達に即して、ICT等の情報機器の活用法も取り入れながら、具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもを取り巻く環境と領域「環境」のねらい 第2回：自然に親しみ植物に触れる保育の実際（植物栽培） 第3回：標識・文字等に関わる保育の実際 第4回：数量・図形等に関わる保育の実際 第5回：情報機器を使用した身近な素材や自然物を用いた保育の実際と計画立案 第6回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（模擬保育） 第7回：生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 第8回：環境に関わる現代的課題</p>			
<p>テキスト</p> <p>領域「環境」、田宮縁著、萌文書林、2018年。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>保育内容「環境」、久保健太、高嶋景子、宮里暁美、ミネルヴァ書房、2021年。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各授業の小課題（30%）、指導案作成・模擬保育の実施（40%）、レポート（30%）</p>			

授業科目名： こどもと言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：金戸清高 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・言葉		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい、内容を理解している。子どもが日常の会話や絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くことの大切さを知るとともに、子どもが相手の話を理解しようとする態度を養うために必要な保育者の援助の知識について理解している。幼稚園教育における評価の考え方を理解し、領域ごとに幼児が身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ICTを活用しながら乳幼児の言葉の獲得に関する領域「言葉」の理解と幼児の発達に応じた適切な「言葉」に関する支援のあり方を体系的に理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、保育・幼児教育の基本</p> <p>第2回：乳幼児期の発達と領域「言葉」、多様な感情体験の言葉</p> <p>第3回：信頼関係から生まれる言葉</p> <p>第4回：自分の考えや思いを伝える言葉</p> <p>第5回：二次的言語の世界</p> <p>第6回：ごっこ遊びと言葉</p> <p>第7回：保育の現代的課題と領域「言葉」</p> <p>第8回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>幼稚園教育要領解説（文部科学省：平成29年告示）、他適宜プリントを配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月31日）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題/レポート（50%）、発表内容（20%）、定期試験（30%）、</p>			

授業科目名： こどもと表現 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：水町（久崎） 愛 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・表現		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目では、幼稚園教育要領に基づき、領域「表現」の指導の基盤となる知識や技能、表現力を身に付ける。幼児の発達と表現を理解し、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現活動（特に音楽表現）を実践するために必要となる基本的な知識と技能を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児期の音楽表現活動の歴史やねらいについて学ぶと共に、幼児の発達と表現の姿についての理解を深める。また、これらの実践を支える保育者の役割について考え、必要な基礎技能としての読譜力と表現力を磨く。音楽表現活動の具体的な実践事例を通してICTや映像資料などの活用法を学び、幼児の発達と感性に則した豊かな表現活動のあり方と導き方について深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保育・幼児教育における音楽 第2回：幼児の音楽表現活動のねらいと保育者の役割 第3回：音楽の構成要素と表現要素（読譜の基礎と楽典）① 第4回：音楽の構成要素と表現要素（読譜の基礎と楽典）② 第5回：音楽表現活動の事例<わらべうた遊び> 第6回：音楽表現活動の事例<リズム遊び> 第7回：音楽表現活動の事例<手遊び,音づくり> 第8回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>高御堂愛子・植田光子・木許隆、「幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現」圭文社 文部科学省、「幼稚園教育要領解説」平成30年3月、フレーベル館 内閣府、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月、フレーベル館 厚生労働省、「保育所保育指針解説」平成30年3月、フレーベル館</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（60%）、課題・レポート（20%）、発表・課題の達成状況（20%）</p>			

授業科目名： こどもと表現Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：犬童昭久 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項・表現		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な造形表現などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育者として理解しておきたい子どもの造形表現についての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。また、子どもの発達に即して、ICT等の情報機器の活用法も取り入れながら、具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：領域「表現」のねらいと造形表現の基礎知識 第2回：幼児期の造形表現の特性 第3回：造形表現の多様性と生成過程 第4回：身体の諸感覚を働かせた造形表現 第5回：幼児の遊びや生活の中に見られる造形表現 第6回：身近な素材や自然物を用いた造形表現 第7回：様々な造形表現と保育の実際 第8回：まとめ（振り返り）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版 内閣府、文部科学省、厚生労働省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各授業の小課題（30%）、レポート（70%）</p>			

授業科目名： 保育内容（総論）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三井真紀 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の基本および教育要領に示された5領域の位置づけと変遷について社会的背景と共に理解できる。 ・ 5領域のねらい・内容を踏まえ、幼児が身につけていく内容と指導上の留意点、評価方法、小学校接続への理解ができる。 ・ 幼児の発達や思考等を基にした保育の構想ができ、活用することができる。 ・ 指導案を作成し、模擬保育を通して保育改善の方法を学ぶと共に、保育構想の向上に努めることができる。 			
授業の概要			
幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領等に示された領域のねらい及び内容について総合的に理解しながら、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身につける。（情報機器及び教材の活用を含む）			
授業計画			
1 保育・幼児教育の基本と保育内容 保育・幼児教育における保育内容の位置づけ			
2 保育内容における目的 保育内容の基本的な考え方と目指すもの			
3 保育内容の変遷・保育内容の歴史的系譜および現代の保育内容の特色			
4 子どもの発達と保育内容 子どもの発達と保育内容のかかわり（グループ討論を含む）			
5 保育内容と環境とのかかわり 保育内容における人的・物的・空間的環境（グループ討論を含む）			
6 あそびを通しての総合的指導 保育内容における遊びのつながりと考え方、小学校への接続の理解			
7 保育内容における活動と主体性 生活の中での活動の考え方と主体性の在り方			
8 保育内容と計画① 園生活と計画			
9 保育内容と計画② 園生活における情報機器の扱い			
10 保育内容と計画③ 保育現場における教育課程と全体的な計画と評価方法			
11 園生活における指導計画の作成① 指導計画の意義と目的			
12 園生活における指導計画の作成② 模擬保育の実践と指導計画の改善			
13 保育園における保育内容 保育園における保育内容の留意点と課題			
14 幼稚園における保育内容 幼稚園における保育内容の留意点と課題			
15 保育内容の現代的課題 育みたい資質・能力を理解するための事例検証とこれまでの総括			
定期試験			
テキスト			
幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成26年12月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価			
テスト（小テスト含む）（50%）・課題（50%）			

授業科目名： 保育内容（健康）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井崎美代 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①乳幼児の発達特性と基本的な生活習慣及び健康についての基本的な事柄を理解できる。</p> <p>②他の4領域との関連を念頭に置きながら、生活習慣の獲得及び健康・安全に生活するための方法を理解できる。</p> <p>③日々の活動を支援することができる保育指導を構想し、提示することができる。</p>			
授業の概要			
<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」を踏まえ、保育者として理解しておきたい領域「健康」及び保育内容の指導法について学修します。具体的には、乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うというねらいを達成するために、乳幼児の発達特性と基本的な生活習慣及び健康についての基本的な事柄や子どもを取り巻く状況について、授業や情報機器、視聴覚教材の活用、保育実践事例分析を通して学修し、保育者としての資質を養うことを内容としています。</p>			
授業計画			
第1回：保育の基本と領域「健康」 保育内容の計画との関連性やその中における領域「健康」の捉え方について			
第2回：乳幼児の発達と領域「健康」(1)乳幼児期の各発達段階における保育者の基本姿勢について			
第3回：乳幼児の発達と領域「健康」(2)乳幼児期の心の安定を支える保育者となるために			
第4回：領域「健康」と保育方法1 領域「健康」と指導計画・評価について			
第5回：領域「健康」と保育方法2 領域「健康」と環境構成、保育者の役割について			
第6回：領域「健康」の指導上の留意点1 生活リズム・生活習慣について			
第7回：領域「健康」の指導上の留意点2 子どもをめぐる食の現状と課題について			
第8回：領域「健康」の指導上の留意点3 子どもの運動と遊びについて			
第9回：領域「健康」の指導上の留意点4 子どもの安全について			
第10回：領域「健康」の指導上の留意点5 子どもの保健について			
第11回：領域「健康」の保育の実際1 健康・食育をテーマとした指導計画の立案・修正（グループワーク）			
第12回：領域「健康」の保育の実際2 健康・食育をテーマとした指導計画の発表準備（グループワーク）			
第13回：領域「健康」の保育の実際3 健康・食育をテーマとした指導計画の発表（模擬保育）			
第14回：領域「健康」の保育の実際4 健康・食育をテーマとした指導計画の発表（模擬保育）			
第15回：まとめ（模擬保育の振り返りを含む）			

テキスト『保育内容「健康」』川邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

学生に対する評価

課題・レポート60% 発表方法・内容40%

授業科目名： 保育内容（人間関係）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 永野典詞・香崎智郁代 担当形態：オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、幼児が身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・ 子どもが他者との人間関係を形成していくために必要な保育者の援助について理解し、実践できる。 ・ 幼稚園教育における評価の考え方を理解し、領域毎に幼児が身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 ・ 保育内容「人間関係」の視点に基づいた指導案の構成を理解し、情報機器や教材の活用法も取り入れた具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・ 模擬保育と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 			
授業の概要			
乳幼児期の「人間関係」の発達の概要から、実際の保育現場での事例を通しての保育者の援助方法についての検討を行う。乳幼児の「人とかかわる」側面の発達と他者との関係のとり方やその指導のあり方を授業や視聴覚教材、保育実践事例分析を通して学修する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 乳幼児教育の基本【担当：永野典詞】 領域「人間関係」の基礎的内容と他の領域との関係について理解する。			
第2回：自己理解と自己概念【担当：永野典詞】 なぜ人と関わることが必要なのかについて理解し、考察する。			
第3回：社会・文化の中に生きる子ども【担当：永野典詞】 生態学的モデルを通して人間関係を理解し、考察する。			
第4回：領域「人間関係」が目指すもの【担当：永野典詞】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」の基本を考える。			
第5回：人間関係の土台【担当：永野典詞】 乳幼児期の発達課題とは、愛着形成について考える。			
第6回：保育所における人との関わり【担当：永野典詞】 子どもたちとの出会いとモデルとしての保育者について情報機器を活用しながら理解する。			
第7回：保育者の役割【担当：永野典詞】			

友達との関係と安全基地としての保育者について情報機器を活用しながら理解する。

第8回：自己主張と自己抑制について【担当：永野典詞】

自己主張と自己抑制について情報機器を活用しながら理解する。

第9回：園生活の充実感を支える友だち【担当：永野典詞】

自分の力で問題を解決し、行動していこうとする姿について事例を通して学び、小学校の教科とのつながりを理解する。

第10回：保護者、保育者同士の関わりについて【担当：永野典詞】

保護者と良好な関係を築くことの大切さを理解する。また保育者の言動から学ぶ子どもの姿について理解する。

第11回：指導案作成と模擬保育1【担当：香崎智郁代】

0, 1歳児を対象の具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行う。

第12回：指導案作成と模擬保育2【担当：香崎智郁代】

2歳児を対象の具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行う。

第13回：指導案作成と模擬保育3【担当：香崎智郁代】

3, 4, 5歳児を対象の具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行う。

第14回：幼稚園教育における評価について【担当：香崎智郁代】

幼稚園教育における評価の考え方について理解し、考察する。(グループ討論を含む)

第15回：まとめ これまでの振り返りと総括【担当：永野典詞・香崎智郁代】

定期試験は実施しない。

テキスト

「幼稚園教育要領」(平成29年告示) 「保育所保育指針」(平成29年告示) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年告示) 田宮縁 著 「体験する 調べる 考える 領域「人間関係」」萌文書林

参考書・参考資料等

適宜、指示する。

学生に対する評価

課題レポート(60%)、発表内容(40%)

授業科目名： 保育内容（環境）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：香崎智郁代 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・ 子どもと環境のかかわりや子どもの育ちの理解、保育の環境構成の仕方、保育者の適切な援助などについて理解できる。 ・ 幼稚園教育における評価の考え方を理解し、領域ごとに幼児が身につけていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解している。 ・ 保育内容「環境」の視点に基づいた指導案の構成を理解し、情報機器や教材も活用法も取り入れた具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・ 模擬保育と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼児の発達を「環境」領域の観点から捉え、領域「環境」の指導で必要な感性を養うとともに、教育内容に関する専門的な知識と技能を身に付ける。視聴覚教材や演習などを通して、実際に領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。また、子どもの発達に即して、主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対話的で深い学びが実現する過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を養う。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 講義の目標・内容・進め方・評価について把握する。</p> <p>第2回：「環境」とは、人間の生活と環境 現代の子どもを取り巻く環境の変化について理解する。</p> <p>第3回：生命の営みに触れる 保育施設で栽培されている野菜や花、植物について事例を通して学び、小学校の教科とのつながりについて理解する。</p> <p>第4回：自然と触れ合い感動する 自然との触れ合いを通じた子どもの感性の育ちについて理解し、自然を取り入れた遊びについて演習を行う。</p> <p>第5回：園外保育の体験 園外保育の実際について理解し、演習を行う。</p> <p>第6回：物事の法則性に気づく 環境のなかにある物の特性について学び、小学校で教科とのつながりについて理解する。</p> <p>第7回：季節感を味わう 行事の由来と保育施設での取り上げられ方について情報機器を取り入れながら学ぶとともに演</p>			

習を行う。

第8回：身のまわりのものに愛着を持つ

牛乳パックや紙皿などの身近にあるものを使った遊びについて情報機器を取り入れながら学び、演習を行う。

第9回：科学を体感する

マグネット等を使った遊びについて情報機器を適宜取り入れながら学び、演習を行う。

第10回：数量・図形・標識・文字について

保育室内・外にある数量や図形、標識、文字、標識、文字について情報機器を取り入れながら学び、小学校の教科とのつながりについて理解する。

第11回：指導案の作成と模擬保育1

身のまわりのものを使った遊びについての指導案の作成と模擬保育

第12回：指導案の作成と模擬保育2

自然のものを使った遊びについての指導案の作成と模擬保育

第13回：指導案の作成と模擬保育3

行事に関する指導案の作成と模擬保育

第14回：幼稚園における評価について

幼稚園の評価の考え方について理解し、考察する。

第15回：まとめ これまでの振り返りと総括

定期試験は実施しない。

テキスト

「幼稚園教育要領」（平成29年告示）「保育所保育指針」（平成29年告示）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年告示）田宮縁 著 「体験する 調べる 考える 領域「環境」」萌文書林

参考書・参考資料等 適宜指示する。

学生に対する評価

課題レポート（60%）、発表内容（40%）

授業科目名： 保育内容（言葉）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金戸清高 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：学生が言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導法を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい、内容および指導上の留意点を理解している。 ・子どもが日常の会話や絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うために必要な保育者の援助について理解し、実践できる。 ・幼稚園教育における評価の考え方を理解し、領域ごとに幼児が身につけていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解している。 ・模擬保育と振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 			
授業の概要			
<p>乳幼児の言葉の獲得に関する領域「言葉」の理解と幼児の発達に応じた適切な「言葉」に関する支援のあり方を体系的に理解する。情報機器の活用も適宜取り入れた演習や絵本等の児童文化財に接することで、子どもの発達と言葉の獲得に関する保育内容の指導の大切さを学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
授業概要、乳幼児教育の基本と言葉の指導、小学校教育への展開について			
第2回：領域「言葉」とは何か			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と領域「言葉」 2. 領域「言葉」のねらいと内容 3. 領域「言葉」と他の領域との関係 4. 言葉の発達について 5. 初語の頃から幼児後期、小学校低学年まで 6. 言葉の発達の背景にあるもの（情報機器や教材を活用したグループ討論を含む） 			
第3回：領域「言葉」とは何か			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども理解 2. 遊びの中での関わり 3. 活動のなかでの関わり 4. 保育者の関わりの諸問題（情報機器や教材を活用したグループ討論を含む） 			
第4回：子どもの言葉と保育者のかかわり			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども理解 2. 遊びの中での関わり 3. 活動のなかでの関わり 4. 保育者の関わりの諸問題（情報機器や教材を活用したグループ討論を含む） 			
第5回：特別な配慮が必要な子どもとのかかわり			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉の発達が気になる子 2. 保育者の関わり方 3. 保護者との関わり 4. 専門機関との連携 			

5. 保育者の姿勢（情報機器や教材を活用したグループ討論を含む）

第6回：うたや触れあいを楽しむ遊び

1. わらべうた 2. 手遊び・うた遊び 3. 素話 4. 言葉遊び

第7回：絵と言葉の豊かな世界を楽しむ

1. 絵本とは 2. 紙芝居

第8回：劇や物語を楽しむ

1. パネルシアター 2. エプロンシアター 3. ペープサート 4. 人形劇

第9回：ごっこの世界から劇遊びへ

1. ごっこ遊びと劇遊び 2. 劇遊びと表現 3. 年齢別発達における絵本・ごっこ・劇遊びの実際

第10回：指導計画

短期および中長期の保育に関する指導計画に基づいた指導案作成の学び

第11回：幼稚園における評価

幼稚園の評価の考え方について理解し、考察する。

第12回：指導案の作成と模擬保育1

絵本読み聞かせを取り入れた指導案の作成と模擬保育

第13回：指導案の作成と模擬保育2

紙芝居、ペープサート、エプロンシアターを取り入れた指導案の作成と模擬保育

第14回：指導案の作成と模擬保育3

パネルシアター、新聞シアターを取り入れた指導案の作成と模擬保育

第15回：まとめ

保育内容（言葉）の授業のまとめ、レポート提出

定期試験：授業内容の総括

テキスト

「保育ニュー・スタンダード保育内容『言葉』」太田光洋・古相正美・野中千都編著 同文書院
幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成26年12月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

課題/レポート（50%）、発表内容（20%）、定期試験（30%）

授業科目名： 保育内容（表現Ⅰ）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三井真紀 担当形態： 単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育の基本および教育要領に示された領域「表現」の位置づけと変遷について社会的背景と共に理解できる。 ・ 領域「表現」のねらい・内容を踏まえ、幼児が身につけていく内容と指導上の留意点、評価方法、小学校への接続が理解できる。 ・ 幼児の発達や思考等を基にした指導案作成と模擬保育ができ、保育改善方法と保育構想の向上に努めることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について総合的に理解しながら、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の基本と保育内容「表現Ⅰ」：保育内容における領域「表現Ⅰ」の位置づけ 2 保育内容「表現」の目指すもの：保育内容「表現」の基本的な考え方と目的と方法、実践 3 保育内容「表現」の変遷：保育内容「表現」の歴史的系譜および現代の保育内容「表現」の特色 4 幼児の発達と保育内容「表現」：幼児の発達と保育内容「表現」（グループ討論を含む） 5 保育内容「表現」と幼児の発達：保育内容における幼児の発達理解および幼児の評価 6 小学校への接続に向けて：保育内容「表現」と小学校への学びのつながりを考える 7 保育内容「表現」と情報機器：情報機器及び教材の活用について 8 保育内容「表現」と指導計画①：園生活と表現指導方法について 9 保育内容「表現」と指導計画②：「表現」における計画の在り方とは 10 保育内容「表現」と指導計画③：保育現場における「表現」における計画作成の留意点 11 指導計画の作成と模擬保育実践①：指導計画の基本理解・作成・模擬保育実践の計画準備をする 12 指導計画の作成と模擬保育実践②：小グループによる模擬保育を実践し、省察を行う 13 保育園における保育内容「表現」：保育所保育指針における表現のとらえかたの留意点と課題 14 幼稚園における保育内容「表現」：幼稚園教育要領における表現とらえかたの留意点と課題 15 まとめ：これまでの総括と質疑応答等 <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 26 年 12 月内閣府、文部科学省、厚生労働省）</p>			
<p>参考書・参考資料等 適宜指示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>テスト（小テスト含む）（50%） 課題（50%）</p>			

授業科目名： 保育内容(表現Ⅱ)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：犬童 昭久 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、保育内容の領域「表現」に関する基礎的知識を習得するとともに、造形表現活動を通して幼児理解を深め、より実践的に保育者の役割を考える力を身に付ける。 ・ 幼稚園教育における評価の考え方を理解し、領域ごとに幼児が身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等のつながりを理解している。 ・ 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 			
授業の概要			
<p>幼児の発達を「表現」領域の観点から捉え、造形表現活動を中心に幼児理解を深めながら保育内容について学ぶ。そのため、アクティブ・ラーニングの視点から情報機器の適切な活用も図りながら演習を行い、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について総合的に理解し、幼児の発達に即した具体的な指導を想定した保育構想や方法を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
講義の目標・内容・進め方・評価について把握する。			
第2回：保育における造形表現活動の意義			
保育における造形表現活動の意義について考察を行う。			
第3回：幼児の造形表現の発達論			
幼児の造形表現の発達論について学ぶとともに、演習を行う。			
第4回：幼児の描画の特徴とその背景			
幼児の描画の特徴とその背景、幼稚園教育における評価について知る。			
第5回：幼児の造形表現の発達に即した援助			
幼児の造形表現の発達に即した援助と幼稚園教育における評価の考え方について考察する。			
第6回：幼児の造形表現の発達過程に見られる個人差			
幼児の造形表現の発達過程に見られる個人差と領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性について考察する。			
第7回：保育における造形表現指導のねらい			
領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性を理解し、保育における造形表現指導のねらいについて学ぶとともに、演習を行う。			

第8回：造形表現の指導における保育者の役割

造形表現の指導における保育者の役割について学ぶとともに、演習を行う。

第9回：保育における造形表現の指導形態

演習を通して保育における造形表現の指導形態について学ぶとともに、小学校の教科等とのつながりを理解する。

第10回：保育における造形表現の間接的な援助

保育における造形表現の間接的な援助について、指導案を作成し、模擬保育を行う。

第11回：保育における造形表現の直接的な援助

保育における造形表現の直接的な援助について、指導案を作成し、模擬保育を行う。併せて情報機器を活用した演習も行う。

第12回：保育における造形表現に関する模擬保育

保育における造形表現に関する模擬保育について指導案を作成し、模擬保育を行う。

第13回：幼児の造形表現の動機と意欲

幼児の造形表現の動機と意欲について考察するとともに、演習を行う。

第14回：幼児の造形表現の個人差と読み取り

幼児の造形表現の個人差と読み取りについて、考察と演習を行う。

第15回：まとめ

これまでの授業を総括し、学修内容について確認する。

定期試験は実施しない。

テキスト

幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成26年12月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（80%）、発表（20%）

授業科目名： 国語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金戸清高 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・国語（書写を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が保小および幼小の接続を理解する。 ・ 小学校「国語」の歴史、体系とその内容についてあらましを理解する。 ・ 書写に関する知識と基本的な技術を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>国語に関する基礎知識を身につけるとともに、国語の特質を理解した国語力の養成に努める。将来幼児教育の分野で、指導者として次世代の教育に携わり、「ことば」の働きに配慮できる実力の養成と向上を目標とする。特に国語の構造や学習内容について、幼小・保小の接続について、保育内容から小学校学習指導要領へのつながりを重視しながら体系的に概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入1（幼・保と小の比較） 保育内容の領域「言葉」および教科「国語」について理解を深める。</p> <p>第2回：導入2（「頼もしい年長さん」から「かわいらしい」1年生に） 小・幼（保）の連携が進みつつある現在、なお課題として残る問題について理解する。</p> <p>第3回：保育内容「言葉」から小学校学習指導要領へ 領域「言葉」から小学校「国語科」へ移行する際の課題について、問題点を認識する。</p> <p>第4回：国語科の構造1 国語科の歴史、国語教育と国語科教育について概説する。</p> <p>第5回：国語科の構造2 国語教育の内容、教育内容の構造化について概説する。</p> <p>第6回：国語科の構造3 国語教育の内容、教育内容の構造化について概説する。</p> <p>第7回：国語科の目標 学習指導要領に定められた国語科の「目標」について詳説する。</p> <p>第8回：国語科の学習内容1 学習指導要領に定められた国語科の内容について「知識及び技能」の観点から詳説する。</p> <p>第9回：国語科の学習内容2 学習指導要領に定められた国語科の内容について「思考力・判断力・表現力」「A話すこと・聞くこと」の観点から詳説する。</p>			

第10回：国語科の学習内容2

学習指導要領に定められた国語科の内容について「思考力・判断力・表現力」「B書くこと」の観点から詳説する。

第11回：国語科の学習内容3

学習指導要領に定められた国語科の内容について「思考力・判断力・表現力」「C読むこと」の観点から詳説する。

第12回：学習の評価について

国語科における評価の意義と理解について概説する。

第13回：書写についての学習1

硬筆による書写についての知識と技術を深めさせる。

第14回：書写についての学習2

毛筆による書写についての知識と技術を深めさせる。

第15回：まとめ

授業の総括と質疑応答、レポート提出

定期試験

テキスト

適宜プリントを配布

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領「国語科」（解説つきのもの）

学生に対する評価

課題/小レポート（30）、発表内容（30）、定期試験（40）

授業科目名： 社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原孝徳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・社会		
<p>授業のテーマ及び到達目標：社会的事象について、多角的に思考して解釈できる力を高める。</p> <p>①社会科の成立とその時代背景、学習指導理論について説明できる。</p> <p>②資料や史料の分析方法が分かり、社会事象や歴史的事象について深く追求できる。</p> <p>③社会科の資料等を検討・調査し、その検討内容を授業計画作成に活かすことができる。</p>			
<p>授業の概要：社会科に関する専門的事項として、社会科学習指導理論の変遷や内容を明らかにする。地理的分野の検討では、データ化された資料と社会事象の関係を分析し、資料の検討方法や教育内容の設定方法を身につけていく。また、歴史的分野の資料検討から、歴史研究の成果を分析し、授業化の視点を身につけていく。その後、社会科における学習資料の作成や授業の在り方について学修していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、社会科の概要 教育の目的（社会科関連）について考察する。</p> <p>第2回：社会科教科構造の変遷1 「社会科」誕生の経緯、初期社会科の実践</p> <p>第3回：社会科教科構造の変遷2 経験主義的問題解決学習から系統学習へ、学習指導要領の変遷</p> <p>第4回：社会科教科構造の変遷3 教育改革の方向性と新学習指導要領 社会科の目標・内容</p> <p>第5回：地理的分野の資料分析1 産業学習に関する教科書資料について、疑問を基に分析する</p> <p>第6回：地理的分野の資料分析2 産業学習に関する教科書資料について分析し、学習展開を構想。</p> <p>第7回：地理的分野の資料分析3 資料について分析し、疑問点等について再調査した結果を検討。</p> <p>第8回：地理的分野の教育内容の設定 資料と社会的事象の関係について検討し、教育内容を設定。</p> <p>第9回：授業構想作成と模擬授業の検討 設定した教育内容の模擬授業と検討を行う。</p> <p>第10回：歴史的分野の資料分析1 歴史的学习に関する教科書資料の分析を行い、検討する。</p> <p>第11回：歴史的分野の資料分析2 学習資料に関する歴史的事象について検討する。</p> <p>第12回：歴史的分野の教育内容の設定 資料分析から得た内容から、教育内容と学習計画を検討。</p> <p>第13回：資料と授業構想の検討 教科書資料と新たな資料をもとに、授業構想について検討する。</p> <p>第14回：教育内容の創造 授業実践例をもとに「主体的、対話的で深い学び」の視点から検討する</p> <p>第15回：まとめ・整理 授業内容の再確認、これからの社会科学習の進め方について検討する。</p> <p>定期試験：学修内容の確認</p>			
<p>テキスト：小学校学習指導要領解説 社会科編（平成29年6月 文部科学省）</p> <p>教育実習希望校使用の小学校社会科教科書（3年、4年、5年、6年、地図帳）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>随時紹介する</p>			

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業後のレポート（20％）、課題・模擬授業等の内容（30％）

授業科目名： 算数	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：赤井秀行 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・算数		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では算数科の学習内容における数学的背景について考察し、学習内容の意味と意義の理解を深めることを講義のテーマとし、下記の3点を到達目標として設定する。また、下記到達目標達成のため、関連する中学校数学科の学習内容も適宜取り入れ、小学校とのつながりという視点からも考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な数学的知識・技能を身に付け、問題解決に活用することができる。 2. 算数教科書の数学的背景を理解し、学習内容の意義について考察することができる。 3. 算数科における深い学びにつながる教材に必要とされる数学的な考え方を理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校算数科教育の実践には、基本的な数学的素養が必要となる。本講義ではその育成をねらいとして、算数科の5領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の指導内容の数学的背景に関する講義・演習を行う。さらに、算数と数学をつなぐ視点から、算数科の指導内容の本質について考察する。なお、アクティブラーニングとして、協働的な問題解決を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：算数科指導への数学の必要性</p> <p>第2回：「数と計算」領域の内容－（1）自然数の性質とその計算①</p> <p>第3回：「数と計算」領域の内容－（2）自然数の性質とその計算②</p> <p>第4回：「数と計算」領域の内容－（3）0と負の数</p> <p>第5回：「数と計算」領域の内容－（4）分数の性質とその計算</p> <p>第6回：「数と計算」領域の内容－（5）実数への拡張</p> <p>第7回：「測定」領域の内容－量と測定</p> <p>第8回：「図形」領域の内容－（1）平面図形</p> <p>第9回：「図形」領域の内容－（2）図形の対称性</p> <p>第10回：「図形」領域の内容－（3）空間図形</p> <p>第11回：「図形」領域の内容－（4）円周率と円の面積</p> <p>第12回：「変化と関係」領域の内容－（1）関数概念と比例・反比例</p> <p>第13回：「変化と関係」領域の内容－（2）同種の二つの量の割合</p> <p>第14回：「変化と関係」領域の内容－（3）異種の二つの量の割合</p>			

第15回：「データの活用」領域の内容－統計

テキスト

授業中に適宜資料を配付する

参考書・参考資料等

教育系のための数学概説（吾妻一興他著、培風館）

入門算数学（黒木哲徳著、日本評論社）

算数教科書の数学的背景（斎藤昇・小原豊編著、東洋館出版社）

学生に対する評価

講義内容に関するレポート（70%）・毎回の講義に関する振り返り小レポート（30%）

授業科目名： 理科	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本昌弥 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項・理科		
授業のテーマ及び到達目標			
[授業のテーマ] 科学的思考力を育成する理科教育法の修得			
[到達目標]			
①小学校理科授業を実施する教師に必要な科学的知識及び指導技能を修得する。			
②実験・実習等に係る指導方法や用具の使用法について習熟し、事故を未然に防止するスキルを習得する。			
③理科の楽しさを理解し、科学的思考力を育成することができる指導力を身につける。			
授業の概要			
<p>本授業では、小学校での理科の授業を担当するのに必要な知識及び基本的実験技術の習得を目指すものとする。授業では物理・化学・生物・地学の各分野をバランスよく取り扱うが、授業中の事故等が多く報告されている化学分野実験（濃度調製を含めた薬品取扱い、化学実験の際に起きやすい事故の事例研究、効果的な化学実験の指導法等）については重点的に実習する。</p> <p>学修については、アクティブラーニングを取り入れ、全体討議やグループ討議、ICT機器等の活用等も実施する。</p>			
授業計画			
第1回：【ガイダンス】 授業目的及び授業内容の説明を行い、また科学的思考力が社会にどのように必要とされ、それを追究する理科教育の必要性について言及する。			
第2回：【植物観察①】 ICT機器を活用した樹木調査をおこない、樹種の同定法を修得し、大学構内の樹木分布図作成を実施する。			
第3回：【植物観察②】 前時に実施した樹木分布を利用して樹木が生活の中でどのように活用されているかをグループごとに調べ、プレゼンテーションする。			
第4回：【植物観察③】 花卉の観察及びスケッチをルーペ及び顕微鏡等を用いて実施し、植物の構造や特徴等を詳細に観察し、理科教育における「観察」の重要性を理解する。			
第5回：【化学実験①】 原子番号、質量数、質量パーセント濃度、モル濃度等、化学の基本的な用語及び計算法について習熟し、濃度調製の基礎を学修する。			
第6回：【化学実験②】 酸・塩基の濃度調製を行い、小学校理科で用いられる試薬の使い方について学修する。また金属と酸の反応実験を行い、酸の特徴を理解する。			
第7回：【化学実験③】 アルコールランプ、ガスバーナーの使用法について習熟し、またガラス細工による実験器具の作成を行う。			
第8回：【化学実験④】 小学校で行われる化学実験で用いられる器具の使用法について学修し、それ			

らを用いた化学実験が滞りなく行えるように学修する。また実験事故の事例をグループごとに研究し、事故をおこさない安心安全な授業のあり方を理解する。

第9回：【物理実験①】 力学分野における重力加速度測定をICT機器によって実施する。タブレットの機能を理解し、画像解析による実験方法を修得する。

第10回：【物理実験②】 プログラミングによる物理教育の現状について学修する。グループごとに自動車やドローン等をプログラミングで制御し、ICT機器による物理の理解及び興味・関心の喚起についての学修をおこなう。

第11回：【物理実験③】 グループごとに前時の学修成果を発表し、物理教育におけるICT機器の活用法について報告し合う。

第12回：【物理実験④】 静電気による物理実験を実施し、電磁気と力の関係についての理解を図る。特にフレミング則やレンツ則と生活の関係性を考察し、その重要性を理解する。

第13回：【地学観察①】 偏光顕微鏡及びルーペを用いて岩石を構成する鉱物の観察を行い、そのスケッチを行う。岩石を構成する鉱物には生活に有用な元素が含まれ、資源についての理解を促す。

第14回：【地学観察②】 地震・津波・豪雨等の自然災害を画像等を観察することによって学修し、防災教育の必要性を理解し、その指導法について学修する。

第15回：【まとめ】 身の回りには理科に関する現象や製品が多く存在し、また科学的思考法を身につけることによって平等で自由な社会を構築できることを理解する。

定期試験：実施しない

テキスト

なし [授業中に適宜資料をデータで配布する]

参考書・参考資料等

木下紀正 (2003) : 大学の物理 -基礎と活用-. 裳華房フィジックスライブラリー

木下紀正・八田明夫 (2022) : 地球と環境の科学. 東京教学社.

学生に対する評価

【平常点 (態度・行動観察)】 協働的グループワーク及び実験・実習の習熟 (40%)

【課題・レポート】 毎回課される提出物 (40%)

【事前学修】 事前配布資料の精読・感想提出 (10%) ,

【事後学修】 授業内容の感想提出 (10%)

授業科目名： 生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保幸貴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 生活		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>[授業のテーマ] 実習を通しての生活科の意義の理解と教育法の修得</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 小学校生活科授業を実施する教師に必要な背景知識及び指導技能を修得する。</p> <p>② 履修生が生活科の教育目標に沿った体験的授業を履修・習得し、その教育目標を理解し、また指導できるようになる。</p> <p>③ 履修生が生活科の教育目標を活かす教材開発を行うことができるようになり、併せてそこから理科や社会などの続く中学年科目への接続を意識できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、生活科の授業で取り扱われるようなテーマを、その背景にある知識や技能を履修及び習得しつつ、実際に自ら体験する中で同様な授業を受ける児童の体験や思いをシミュレートしてもらおう。野菜などの植物の世話や日時計の作成などの理科的な興味に接続しやすいフィールドワークや生活マップ、生活暦などの地域や社会との関りに関連した活動を行っていく。学修についてはアクティブラーニングを取り入れ、グループディスカッションやICT機器等の活用を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：【ガイダンス】 授業目的及び授業内容の説明を行い、生活科教育の意義と役割について言及する。</p> <p>第2回：【植物育成①】 植物の育成の概要と基礎知識について理解する。特に自分の育てたい植物について調べ育成の目標を立てる。</p> <p>第3回：【植物育成②】 植物を実際に植え、これからの育成の準備を行う。また、育成の工程表を作り計画的に育成を続ける。継続的に写真を撮影して記録をとる。</p> <p>第4回：【生活科暦①】 生活科暦の作成を行う。授業期間の中で自分がどのようなテーマで生活科暦を作成するのかの計画を立てる。</p> <p>第5回：【生活科マップ①】 生活科マップの作成を行う。マップ作成のためのアイデアを考える。</p> <p>第6回：【日時計①】 日時計の背景にある理論的知識などを学び、実際に日時計を作るためにはどのようにしたらよいかを学ぶ。</p> <p>第7回：【日時計②】 実際に自分たちで日時計を作成し、実際に作る過程でどのような感情を抱くか、どのような困難があるかなどを体験する。</p> <p>第8回：【植物育成③】 植物の世話と経過観察を行う。</p>			

第9回：【生活科マップ②】生活科マップの進展をグループで紹介しあう。互いの生活科マップの良いところを見つけ、自分の生活科マップの改善点を検討する。

第10回：【生活科マップ③】生活科マップの完成。完成した生活科マップを発表しあう。生活科マップを作成する過程で気付いたことをまとめる。

第11回：【生活科暦②】生活科暦の完成。完成した生活科暦を発表しあひ互いの生活科暦の良いところを見つける。生活科暦を作成する過程で気付いたことをまとめる。

第12回：【生活科暦③】生活科暦を作成した経験を踏まえつつ、自分が生活科の授業をするという観点に立って1年間の生活科（指導）暦を検討する。

第13回：【植物育成④】植物の世話と経過観察を行う。

第14回：【ICT機器活用】ICT機器を用い植物の成長記録を作成する。デジタルカメラなどで撮影した植物の記録写真をパソコンで加工・編集するなどしてタイムラプス動画などの観て楽しめる成長記録を作成する。

第15回：【まとめ】普段当たり前で過ごしている身の回りの出来事の中に生活科の教材を見出し、その楽しさによって多くのことが学べ、興味が広がっていくことを実感し、理解する。

定期試験：実施しない

テキスト

なし [授業中に適宜資料を配布する]

参考書・参考資料等

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」

学生に対する評価

課題・レポート（80%） 発表（20%）

授業科目名： 音楽	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森みゆき 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・音楽		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読譜の能力が身に付き、簡単な楽譜が読めるようになる。 ・音程や調性、和音、音楽に関する用語や記号などについて説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>音楽をより深く味わい、理解するために、小学校音楽の指導に必要な音楽理論について学修する。同時にソルフェージュの学修を通して、リズム感、音程の感覚、和声感などの基礎的な能力を身につける。音楽理論やソルフェージュの学修に際しては、小学校現場等で使用されているICT教材を使用し、さらにどのようにしたら効果的に楽しく学べるかについてディスカッションを行いながら授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：音符と休符</p> <p>第3回：音程</p> <p>第4回：拍子</p> <p>第5回：長音階の構造と調</p> <p>第6回：いろいろな調</p> <p>第7回：固定ドと移動ド</p> <p>第8回：音程</p> <p>第9回：短音階の構造と調</p> <p>第10回：調の関係 平行調、同主調</p> <p>第11回：記号と標語</p> <p>第12回：和音</p> <p>第13回：和音の転回</p> <p>第14回：コードネーム</p> <p>第15回：総復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『楽譜が読める・弾けるステップ20』（甲斐彰著、音楽之友社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『楽典—理論と実習』（石桁真礼生、音楽之友社）</p>			

学生に対する評価

平常点：積極的な取り組み、予習・復習の様子（30%）、課題・レポート（20%）、
定期試験（50%）

授業科目名： 図画工作	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：犬童昭久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・図画工作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 多様な表現活動を関連させると共に、表現と鑑賞も関連づけた指導を行うために、それぞれの領域に含まれる具体的な理念と内容を把握し、作品の制作を通して発表することができる。</p> <p>2. 「図画工作」を実践していく上での理解・認識と指導を行うために、基礎的な能力と発展的・応用的知見を身につけ、文章等で発表することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では身近な素材や材料（紙や着色用具など）を用いて、基礎的な実技演習を行い、図画工作が子どもたちにとって、より意味のある充実した学習になるように理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 講義の目標・内容・進め方・評価について把握する。</p> <p>第2回：図画工作科の活動内容 図画工作科の位置づけ、目標、内容構成について知る。</p> <p>第3回：造形遊びの内容と方法① からだの感覚やからだ全体を使った活動について、考察を行う。</p> <p>第4回：造形遊びの内容と方法② 多様な造形素材をもとにした活動について、考察を行う。</p> <p>第5回：絵に表す活動の内容と方法① 描画材料の種類や特徴について、考察と演習を行う。</p> <p>第6回：絵に表す活動の内容と方法② 色づくりと彩色について、考察と演習を行う。</p> <p>第7回：絵に表す活動の内容と方法③ 具体的教材をもとに絵に表す活動の内容と方法について、考察と演習を行う。</p> <p>第8回：立体に表す活動の内容と方法① 立体に表す活動の内容と種類、特徴、技法などについて、解説を行う。</p> <p>第9回：立体に表す活動の内容と方法② 紙を素材とした工作に関して、考察と演習を行う。</p> <p>第10回：立体に表す活動の内容と方法③ 具体的教材を使い立体に表す活動の内容と方法について、考察と演習を行う。</p>			

第11回：つくりたいものをつくる活動の内容と方法①

色相、明度、彩度および色調にもとづく配色調和に関して、考察と演習を行う。

第12回：つくりたいものをつくる活動の内容と方法②

色彩の基礎知識（色の見え方など）、および色彩の感情効果（情緒的あるいは機能的）について、考察と演習を行う。

第13回：つくりたいものをつくる活動の内容と方法③

つくりたいものをつくる活動の内容と方法について、飾る・動く・使うものをつくるための考察と演習を行う。

第14回：鑑賞の活動の内容と方法

鑑賞の活動の内容と方法と情報機器の活用について考察と実践を行う。

第15回：まとめ

これまでの授業を総括し、学修内容について確認する。

定期試験は実施しない。

テキスト

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（平成29年6月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（80%）、発表（20%）

授業科目名： 家庭	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩下紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・家庭		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校家庭科の目標及び内容について理解し、目的に沿った授業展開のための教材研究ができるようになる。小学校家庭科の調理実習や被服実習の題材を指導できるように基礎・基本の技術力を身につけると共に、自立した生活者及び消費者を育成できるように、多様な視点から生活を見つめ、児童・生徒に伝える内容について精査できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校家庭科の指導に必要な家庭生活全般に関する専門的内容を、理論的、体験的に学び、自らの生活にフィードバックし実践できるようになる。調理実習及び被服製作実習（演習、グループワーク）などを実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション講義内容、家庭科の目標及び内容、講義内容と日程、調理実習および被服製作実習でのグループワーク</p> <p>第2回：家庭科の目標および内容（1）家庭生活全般（家族や家庭、衣食住、消費や環境）に関する目標および内容の指導</p> <p>第3回：家庭科の目標および内容（2）家庭生活全般（家族や家庭、衣食住、消費や環境）に関する目標および内容の指導</p> <p>第4回：衣食住の生活（1）食生活について：食品の衛生と安全、調理の基本と調理（実習を含む）</p> <p>第5回：衣食住の生活（2）食生活について（栄養素とそれを多く含む食品）</p> <p>第6回：衣食住の生活（3）食生活について（主食になるものとその調理（実習を含む））</p> <p>第7回：衣食住の生活（4）食生活について（食文化、食生活をめぐる問題）</p> <p>第8回：衣食住の生活（5）食生活について（理想的な献立の形と副菜の調理（実習を含む））</p> <p>第9回：衣食住の生活（6）衣生活について（衣生活に係る文化と衣生活上の課題）</p> <p>第10回：衣食住の生活（7）衣生活について（衣服の構造と布の縫製（実習を含む））</p> <p>第11回：衣食住の生活（8）住生活について（快適な住まい方と住まいに係る課題）</p> <p>第12回：家族・家庭生活（1）家族の変化と家庭生活の変遷について</p> <p>第13回：家族・家庭生活（2）結婚の歴史と法的側面からみた結婚について</p> <p>第14回：消費生活・環境（1）消費者問題の変遷と構造について</p> <p>第15回：消費生活・環境（2）消費者市民社会について及び家庭の授業内容の全体的なまとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

『新しい家庭5・6』（東京書籍）、『小学校学習指導要領解説 家庭編』（平成29年告示
文部科学省）

参考書・参考資料等

家庭科教育に関する専門書

学生に対する評価

発表（20%）、課題・レポート（40%）、期末テスト（40%）

授業科目名： 体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井崎 美代 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・体育		
授業のテーマ及び到達目標 実技や講義を通して、小学校学習指導要領体育科の領域における、体育、健康に関する基本的な知識や技術を獲得し、指導者としての技能を高める。			
授業の概要 小学校における運動領域の内容について、実践を通して理解を深めていく。具体的には、小学校学習指導要領に示された各種目の特性と運動の構造を理解し、基本的な技術を、実践を通して身につけ、指導者としての技能を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、幼児期から児童期の発育発達について 第2回：準備運動と体操について 第3回：新体力テストについて 第4回：集団行動について 第5回：体ほぐし運動・体づくり運動 第6回：体づくり運動：用具を操作する運動（風船、ボール等） 第7回：体づくり運動：用具を操作する運動（短縄、長縄等） 第8回：表現運動 第9回：陸上運動 第10回：器械運動：マットを使った運動 第11回：器械運動：鉄棒、跳び箱を使った運動 第12回：ボール運動：ボールを使用した基礎的技術の習得、ベースボール型ボールゲーム 第13回：ボール運動：ネット型ボールゲーム 第14回：ボール運動：ゴール型ボールゲーム 第15回：まとめ（授業の振り返りと総括）			
テキスト：必要に応じてプリント等にて配布する。			
参考書・参考資料等：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編』（文部科学省）			
学生に対する評価 レポート課題60% 実技課題達成40%			

授業科目名： 小学校英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本ソニア・島内 直英 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：外国語の教授法や言語習得に関する理解を深め、学修した教授法を小学校の英語の授業に適用できるようになる。また、学習者のやる気を起こさせるようなカリキュラムをデザインできるようになる。			
授業の概要：様々な外国語教授法を学修し、それらの教授法をどのように小学校の英語の授業や、個々の児童及び学校のニーズに合わせて適用するかについて意見交換を行う。更に、カリキュラムの中でどの様に教科書を効果的に活用するかについても学ぶ。			
授業計画			
第1回（島内）：小学校英語の概要～小学校英語の必要性理解（異文化理解）と学習指導要領・他教科や中学校英語との連携など			
第2回（島内）：小学校における英語で培う力（聞く、話す、読む、書く）のあり方と、中学校・高校英語との接続理解、子どもの第二言語習得			
第3回（島内）：学習指導案の書き方及び教科書中の活動への諸教授法の例示（音声・語彙・文構造・文法・正書法等について）			
第4回（松本）：授業実践に必要であった子どもへの文法訳読法（GT）の歴史及び最新の教授法			
第5回（松本）：多重知能理論（MI）、学習スタイルの違い			
第6回（松本）：発音中心の音素認識（聞く・話す）とフォニックス（聞く・話すから読む・書く）を用いた指導法			
第7回（松本）：全身反応教授法（TPR）とTPRストーリーテリング（語彙・文構造・文法）の応用			
第8回（松本）：ナチュラル・アプローチ（The Natural Approach）			
第9回（松本）：コミュニケーション言語教授法（Communicative Language Teaching）			
第10回（松本）：ゲームとアクティビティの違いならびに「聞く」「話す」「読む」「書く」による楽しい教授法と異文化理解			
第11回（松本）：絵本を読み聞かせの技術と異文化理解			
第12回（松本）：児童に対応する歌とリズムによる学習法			
第13回（松本）：授業の構成・流れと帯活動			
第14回（松本）：教科書に活かすICT機器・ALTを活用したティーム・ティーチング			
第15回（松本・島内）：小学校英語のまとめ・中学校英語教育への繋がり～			
定期試験			
テキスト：「小学校英語の教育法 理論と実践」アレン玉井光江			
参考書・参考資料等：「Let's Try 1」「Let's Try 2」東京書籍 「New Horizon 5」「New Horizon 6」「Picture Dictionary」東京書籍 「Here We Go 5」「Here We Go 6」光村図書 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編」文部科学省			

"Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligences" by Howard Gardner

学生に対する評価: 課題提出30%、小テスト30%、学期末の試験の総合評価40%

授業科目名： 国語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金戸清高 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校国語科の目標及び内容並びに全体構造を理解し、かつ個別の学習内容についての指導上の留意点を理解している。</p> <p>また、教科研究の方法や授業の展開方法について学び、子どもの学力などの実態を視野に入れた授業計画を行う方法を理解し、学習指導案を作成する。情報通信技術を活用しながら授業を創造することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>国語科指導要領、小学校国語科教科書及び国語科教育に関する専門書を参考に、指導する目標及び内容を把握し、基礎的な学習指導理論を理解した上で具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。授業の中で情報通信技術を活用した模擬授業を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 講義概要（国語科教育の特質、歴史、背景等について）</p> <p>第2回：国語科の目標及び内容 国語科学習指導要領解説、国語科の目標及び内容、国語科授業外で行われる国語教育について</p> <p>第3回：国語科の内容 国語科における「学習内容」（指導事項）とは何か</p> <p>第4回：教材研究の視点（1） 「話すこと・聞くこと」の教材研究（グループ討論を交えながら）</p> <p>第5回：教材研究の視点（2） 「書くこと」の教材研究（グループ討論を交えながら）</p> <p>第6回：教材研究の視点（3） 「読むこと」の教材研究（詩、物語文、説明文の教材研究）（グループ討論を交えながら）</p> <p>第7回：学習指導の計画と評価 学習指導の計画と評価の必要性とその実際</p> <p>第8回：児童の言語と指導 児童の発達についての説明と段階に応じた指導法の説明</p> <p>第9回：国語科の授業（1） 書写の指導法についての説明と実際</p> <p>第10回：国語科の授業（2）</p>			

情報通信技術を活用した詩の指導計画と模擬授業

第11回：国語科の授業（3）

情報通信技術を活用した物語文の模擬授業と指導計画

第12回：国語科の授業（4）

情報通信技術を活用した神話・昔話や古典の模擬授業と指導計画

第13回：国語科の授業（5）

情報通信技術を活用した説明文の模擬授業と指導計画

第14回：国語科の授業（6）

情報通信技術を活用した語彙・文法藤の模擬授業と指導計画

第15回：まとめ

国語科教育の授業のまとめ、レポート提出

定期試験

テキスト

「小学校学習指導要領解説 国語科」（平成29年度告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

『小学校国語科授業研究』田近洵一・大熊徹・塚田泰彦編 教育出版

学生に対する評価

課題/小レポート（50）、指導案作成・模擬保育の発表内容（30）、定期試験（20）

授業科目名： 社会科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 孝徳 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標：教材研究の方法を身につけ、授業設計能力を高める。</p> <p>①学習指導要領における社会科の目標や各学年の目標、学習内容、全体構造、指導上の留意点、学習評価について理解している。</p> <p>②教材研究の方法を身につけ、授業設計（情報通信技術の活用を含む）と学習指導案を作成することができる。</p> <p>③模擬授業を検討し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を身につけている。</p> <p>授業の概要：学習指導要領における社会科の目標や各学年の目標、学習内容等について理解する。その上で小学校社会科授業の在り方を、教材研究や学習指導案作成、模擬授業等を通してより実践的に学んでいく。また、社会事象と資料の見方、情報通信技術の効果的な活用の工夫を、アクティブ・ラーニングの視点から班別協議等で検討し、社会科の授業設計方法や授業改善の視点を身につけていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業計画の概要と評価、教育の目的（社会科に関連して）等について</p> <p>第2回：社会科の目標、内容等 社会科の目標、主な内容、全体構造、学習活動、評価等について</p> <p>第3回：学習指導案の作成方法と作成 指導上の留意点や評価、学習指導案の構成と作成方法</p> <p>第4回：授業構想の検討①3年の目標と学習内容を理解し、教材研究を基に授業設計の検討を行う。</p> <p>第5回：授業改善策の検討①3年模擬授業の実施及び情報通信技術の活用を含めた授業改善を検討</p> <p>第6回：授業構想の検討②4年の目標と学習内容を理解し、教材研究を基に授業設計の検討を行う。</p> <p>第7回：授業改善策の検討②4年模擬授業の実施及び情報通信技術の活用を含めた授業改善を検討</p> <p>第8回：授業構想の検討③5年の目標と学習内容を理解し、教材研究を基に授業設計の検討を行う。</p> <p>第9回：授業改善策の検討③5年模擬授業の実施及び情報通信技術の活用を含めた授業改善を検討</p> <p>第10回：授業構想の検討④6年の目標と学習内容を理解し、教材研究を基に授業設計の検討を行う</p> <p>第11回：授業改善策の検討④6年模擬授業の実施及び情報通信技術の活用を含めた授業改善を検討</p> <p>第12回：授業改善策の検討⑤6年模擬授業の実施及び情報通信技術の活用を含めた授業改善を検討</p> <p>第13回：授業設計の向上①中学年授業の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の工夫</p> <p>第14回：授業設計の向上②高学年授業の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の工夫</p> <p>第15回：学修内容の整理・確認 今後の社会科授業構想の取り組みに向けて、要点を整理する。</p> <p>定期試験：学修内容の確認</p>			
<p>テキスト：小学校学習指導要領解説 社会科編（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>教育実習希望校使用の小学校社会科教科書（3年、4年、5年、6年、地図帳）</p>			
参考書・参考資料等：随時紹介する			
学生に対する評価			

定期試験（50％）、毎回の授業後のレポート（20％）、課題・模擬授業等の内容（30％）

授業科目名： 算数科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：赤井秀行 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、「数学的な見方・考え方を働かせ、学習した内容を生活や学習で活用するための「数学的に考える資質・能力」を育成する算数科教育を講義のテーマとし、次の3点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領に示された算数科の目標及び内容に基づき、算数科の学習内容（数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用）の本質について理解し、その指導上の課題について児童の認識と数学的背景に基づいて理解している。 2. 数学的な見方・考え方を働かせる算数科の授業を設計（ICTの活用を含む教材研究・学習指導案の作成・適切な学習評価）し、実践（模擬授業）することができる。 3. 授業実践（模擬授業）の参観・実践を通じて、授業改善における主体的・対話的で深い学びの視点について理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>算数科の目標や内容及び教科の特性への理解を深めるとともに、演習を通して算数科教育はいかにあるべきかを学ぶ。そのため、算数科の5領域における指導方法や児童の認識について考察・演習を行うとともに、学修内容の実践として学習指導案の作成・模擬授業を行う。また、本講義においてはアクティブラーニングとして、協働的な問題解決を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：算数科教育の目標と今日的課題</p> <p>第2回：「数と計算」領域の指導－（1）整数と計算（加法・減法）</p> <p>第3回：「数と計算」領域の指導－（2）整数と計算（乗法・除法）</p> <p>第4回：「数と計算」領域の指導－（3）小数と計算</p> <p>第5回：「数と計算」領域の指導－（4）分数と計算</p> <p>第6回：「図形」領域の指導</p> <p>第7回：「測定」領域の指導</p> <p>第8回：「変化と関係」領域の指導</p> <p>第9回：「データの活用」領域の指導</p> <p>第10回：算数科におけるICTの活用・プログラミング教育</p> <p>第11回：算数科における評価と授業作り</p> <p>第12回：算数科における学習指導案の作成</p> <p>第13回：算数科模擬授業－「数と計算」領域－</p>			

第14回：算数科模擬授業－「図形」領域・「測定」領域－

第15回：算数科模擬授業－「変化と関係」領域・「データの活用」領域－

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

講座 算数授業の新展開（新算数教育研究会 編著、東洋館出版社）

新・算数科教育の研究と実践（九州算数教育研究会編、日本教育研究センター）

学生に対する評価

学習指導案を含む講義に関するレポート（70%）

毎回の講義に関する振り返り小レポート（30%）

授業科目名： 理科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本 昌弥 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>[授業のテーマ] 小学校における理科教育の必要性・重要性を学修し効果的な指導法を修得する</p> <p>[到達目標] 以下の1～5を授業の到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校学習指導要領における理科の目標・内容及び全体構造を理解し、その説明ができるようになる 2. 小学校理科における教材研究の視点・手法を把握する 3. 理科教育に必要な実験・実習等に必要な指導上の留意点を十分に理解・修得する 4. 諸外国と日本の理科教育について比較し、教育目標を明確に理解・習得する 5. 理科教育と防災教育の関係を把握する 			
授業の概要			
<p>本授業では、学習指導要領に掲げられている理科の教育目標を明確に学修し、その目標に沿った理科の授業が展開できるようになるため、以下の①～⑤の学修内容の修得を目指す。学修にあたって、アクティブラーニングを取り入れ、全体討議やグループ討議、模擬授業及びICT機器等の活用等も実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小学校における理科教育の在り方を多角的に考察する。 ②学習指導要領の理解、これまでの変遷について把握・理解する。 ③教科理科の国際比較や教育法を理解する。 ④初等教育における児童の自然科学的な概念がどのように形成されるかを学修する。 ⑤小学校理科授業を実施する教師に必要な科学的知識及び指導技能を修得する。 			
授業計画			
<p>第1回：【ガイダンス】 授業目的及び授業内容の説明を行い、また理科と社会の関係性について理解しそれを追究する理科教育のあり方について言及する。</p> <p>第2回：【小学校学習指導要領の開設】 小学校学習指導要領にある教科理科の教育目標について詳しく学修し、その教育目標を達成するためのカリキュラムの体系について理解する。</p> <p>第3回：【理科カリキュラムの変遷①】 戦前から戦後の理科教育カリキュラムの変遷について10年ごとに区切って（戦前～昭和50年代まで）解説し、その特徴を理解する。</p> <p>第4回：【理科カリキュラムの変遷②】 理科教育カリキュラムの変遷について10年ごとに区切って（昭和50年～平成元年まで）解説し、その特徴を理解する。</p> <p>第5回：【理科教育カリキュラムの変遷③】 理科教育カリキュラムの変遷について10年ごとに区切って（平成元年～現在まで）解説し、その特徴を理解する。</p> <p>第6回：【児童の自然認識の特徴】 児童の脳の発達とその発達段階に応じた適切な教材のあり方につ</p>			

いて理解し、教材の選択方法や授業での言葉の選び方について学修する。

第7回：【小学校理科の学習内容と教材①】 生活科との連携、及び3・4年生時の学習内容について理解する。また野外学習の必要性やICT機器を活用した授業法について学修する（情報機器・教材の活用：タブレットの活用）。

第8回：【小学校理科の学習内容と教材②】 5・6年生時の学習内容について理解する。また野外学習の必要性やICT機器を活用した授業法について学修する（情報機器・教材の活用：タブレットの活用）。

第9回：【小学校理科の目標と内容①】 学習指導要領の内容を把握し、各分野（物理・化学・生物・地学・情報等）との連携について学修する。

第10回：【小学校理科の目標と内容②】 6年生「ものの燃え方」についての実験を題材として、主体的・対話的で深い学びの展開方法や効果的な理科授業が展開できるかをグループワークで考察する。

第11回：【学習指導案の書き方①】 6年生「物の燃え方」を例としてアクティブラーニングを取り入れた学習指導案の書き方について学修する。

第12回：【学習指導案の書き方②】 実際に作成した学習指導案に基づく模擬授業を実施して、時間配分や学習効果についてグループワークで考察する。またアクティブラーニングの学修効果についてグループ討議をおこなう。

第13回：【学習指導案の書き方③】 作成した学習指導案及び実施した模擬授業の記録を用いてプレゼンテーションを行い、効果的な授業の実施について学修を深める。

第14回：【学習指導案の書き方④】 アクティブラーニングやICT機器を活用した小学校理科の実験・実習等の実施に係る学習指導案を作成し、グループでその学習内容や学習効果について討議をする。

第15回：【まとめ】 主体的・対話的で深い学びによる理科教育を展開することによって、理科を児童にとって興味ある教科として認識させることができるが、これは教師の授業力や教材研究に依存するところが多い。受講者にこれを認識させ、日々の教材研究や研修の重要性を理解させたい。

定期試験：実施しない

テキスト

文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）

文部科学省：小学校学習指導要領解説「理科編」（平成29年告示）

参考書・参考資料等 なし

学生に対する評価

【平常点（態度・行動観察）】 協働的グループワーク及び実験・実習の習熟（40%）

【課題・レポート】 毎回課される提出物（40%）

【事前学修】 事前配布資料の精読・感想提出（10%）,

【事後学修】 授業内容の感想提出（10%）

授業科目名： 生活科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保幸貴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>〔授業のテーマ〕 小学校における生活科教育の必要性・重要性を学修し、効果的な指導法を修得する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校学習指導要領における生活科の目標・内容及び全体構造を理解し、その説明ができるようになる 2. 小学校学習指導要領における生活科の指導計画の作成や生活科の評価の特性について学修し、年間指導計画や単元計画の作成、学習指導について学び模擬授業を通して実践し体得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、学習指導要領に掲げられている生活科の教育目標について理解し、教師としてその目標に沿った生活科の授業が展開できるようになることを目指す。学修にあたってはアクティブラーニングを取り入れグループディスカッションやICT機器等の活用などを実施する。</p> <p>授業の（第2回～第8回）では、学習指導要領における生活科の内容及び指導法について詳細に学び、生活科の授業に必要とされているものを理解する。</p> <p>授業の後半（第9回～第14回）では、模擬授業を体験することで学習指導要領に掲げられている事項を実際の授業に組み込んでいく方法について修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【生活科の目標】 生活科の目標及び学年の目標について学ぶ。</p> <p>第2回：【生活科の内容①】 生活科の内容構成について学ぶ。</p> <p>第3回：【生活科の内容②】 内容を構成する学習活動や学習対象について学ぶ。</p> <p>第4回：【指導計画の作成と内容の取扱い】 指導計画作成上の配慮事項及び内容の取扱いについての配慮事項について学ぶ。</p> <p>第5回：【指導計画の作成と学習指導①】 生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方、および生活科における年間指導計画の作成について学ぶ。</p> <p>第6回：【指導計画の作成と学習指導②】 単元計画の作成及び学習指導の進め方について学ぶ。</p> <p>第7回：【生活科マップ及び生活科暦の再検討】 「生活」の授業で自らが作成した生活科マップ及び生活科暦を再び検討し、模擬授業の題材を探る。生活科マップや生活科暦をICT機器を活用しデータとして保存し直す。</p> <p>第8回：【生活科マップ及び生活科暦の更新】 模擬授業の題材として用いることのできるような教</p>			

<p>材の情報を収集し、データ化された生活科マップ及び生活科暦を更新して模擬授業の計画に活用する準備をする。</p> <p>第9回：【模擬授業の準備①】指導計画の作成を行う。</p> <p>第10回：【模擬授業の準備②】評価計画の作成及び指導案の作成を行う。</p> <p>第11回：【模擬授業の準備③】教材教具の作成・準備を行う。</p> <p>第12回：【模擬授業①】模擬授業を行う。模擬授業の自己評価及び相互評価を行う。</p> <p>第13回：【模擬授業②】模擬授業を行う。模擬授業の自己評価及び相互評価を行う。</p> <p>第14回：【模擬授業③】模擬授業を行う。模擬授業の自己評価及び相互評価を行う。</p> <p>第15回：【まとめ】生活科教育法についてまとめる。理科などの中学年から続く科目に接続する目線で児童の興味・関心を育てる授業について考える。</p> <p>定期試験：実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）</p> <p>文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>課題・レポート（80%） 発表（模擬授業）（20%）</p>

授業科目名： 音楽科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：志波景子・森みゆき 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>小学校学習指導要領の音楽科目標・内容及び全体構造を理解し、その説明ができるようになる。また、表現及び鑑賞の活動についての授業展開を構築し、指導案を作成できるようになるとともに適切な学習評価の考え方を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することをねらいとした音楽教育について学ぶ。そのため、小学校学習指導要領の趣旨や教科の目標・内容についての理解を深め、アクティブラーニングの視点から小学校の教科書教材の分析を通して、情報機器の適切な活用を図りながら音楽科の授業の在り方を検討する。</p>			
授業計画			
第1回：音楽教育と子どもの成長(志波)			
1. 音楽教育が目指すもの 2. 子どもの音楽的成長			
第2回：音楽科の目標(森)			
1. 学習指導要領改訂の基本方針 2. 小学校音楽科の目標 3. 各学年の目標			
第3回：音楽科の指導内容A表現：歌唱(森)			
1. 歌唱活動を通して指導する内容 2. 各学年段階の内容			
3. 変声期の児童への指導 4. 具体的な音楽活動（情報機器の活用を含む）			
第4回：歌唱の指導法1(志波)			
1. 歌唱指導に求められる指導力			
2. 共通教材の分析（低学年の教材を中心とした具体的な指導のポイント）			
3. 具体的な音楽活動（情報機器の活用を含む）			
第5回：歌唱の指導法2(志波)			
1. 発声の仕組み、自然で無理のない発声とは			
2. 「移動ド唱法」の意義			
3. 共通教材の分析（高学年の教材を中心とした具体的な指導のポイント）			
4. 具体的な音楽活動（情報機器の活用を含む）			
第6回：歌唱教材研究（グループワーク）(志波)			
共通教材「ふるさと」の歌い方の工夫（グループワーク）			

第7回：音楽科の指導内容A表現：器楽(森)

1. 授業づくりのポイント
2. 器楽活動を通して指導する内容
3. 各学年段階の内容
4. 教科書教材の分析と進め方
5. 具体的な音楽活動（情報機器の活用を含む）

第8回：器楽の学習と指導1(森)

1. 合奏（アンサンブル）の工夫（グループワーク）
2. 指揮
3. 器楽と音楽づくりとの関連

第9回：音楽づくりの学習と指導(森)

1. 音楽づくりの内容
2. 音楽づくりの指導のポイント
3. 具体的な音楽活動（情報機器の活用を含む）

第10回：音楽科の指導内容B鑑賞(志波)

1. 鑑賞活動を通して指導する内容
2. 各教科書の教材分析と進め方

第11回：鑑賞の授業づくり(森)

1. 鑑賞活動の意義と共通事項
2. 鑑賞教材の分析
3. 我が国や諸外国の音楽に関する取扱い

第12回：学習指導計画(志波)

1. 題材による構成について
2. 主教材と関連教材
3. 表現と鑑賞の組み合わせ

第13回：学習指導計画と展開案の作成(志波)

1. 題材指導計画の作成
2. 主体的、対話的で深い学びの構築
3. 展開案の作成(学習活動、児童の反応と教師の支援、指導と評価の一体化)と情報交換

第14回：模擬授業と評価(森、志波) 模擬授業と意見交換、振り返り（情報機器の活用を含む）

第15回：振り返り(森、志波) 講義内容の総括と今後の課題（情報機器の活用を含む）

定期試験

テキスト

『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法 2022年改訂版』（教育芸術社、2021年）

『小学生のおんがく1』『小学生の音楽2』『小学生の音楽3』『小学生の音楽4』

『小学生の音楽5』『小学生の音楽6』（教育芸術社、2019年）

参考書・参考資料等

文部科学省「小学校学習指導要領」（平成29年3月告知）

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」（平成29年6月）

学生に対する評価

発表（20%）、毎授業後の振り返りシートの内容（42%）、指導案作成（10%）、定期試験及びレポート（28%）

授業科目名： 図画工作科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：犬童 昭久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校学習指導要領の図画工作科目標・内容及び全体構造を理解し、その説明ができるようになる。また、表現及び鑑賞の活動についての授業展開を構築し、活動案を作成できるようになるとともに適切な学習評価の考え方を理解している。			
授業の概要 小学校図画工作科の目標や内容及び教科の特性への理解を深めるとともに演習を通して図画工作教育はいかにあるべきかを学ぶ。そのため、小学校学習指導要領改訂の趣旨や教科の目標・内容について理解を深め、アクティブ・ラーニングの視点から小学校の教科書教材の分析を通して、情報通信技術の適切な活用を図りながら図画工作科の授業の在り方を検討する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション シラバスを基に講義の進め方等に関するガイダンスを行う。 第2回：図画工作科教育の意義と内容 「学習指導要領 図画工作編」を基に図画工作科の位置づけ、目標、内容構成について理解を行うと共に教科としての特性や役割について、考察を行う。 第3回：さまざまな造形方法の活動 子どもの発達段階に応じた造形方法について考察を行うと共に美術や造形の表現活動と豊かな人間形成について、考察を行う。 第4回：造形遊びの活動 造形遊びの活動について、考察と演習を行う。 第5回：絵に表す活動 絵に表す活動について、考察と演習を行う。 第6回：立体に表す活動 立体に表す活動について、考察と演習を行う。 第7回：工作に表す活動 工作に表す活動について、考察と演習を行う。 第8回：鑑賞の活動 鑑賞の活動について、考察と演習を行う。 第9回：授業の構成と年間カリキュラムと評価 カリキュラムの意味と編成および具体的な指導計画と評価方法について考察と演習を行う。			

第10回：模擬授業についてのグループ研究（目標と内容の検討）①

教材研究の意味、教材研究の方法及び指導法に関して具体的事例を基に考察と演習を行う。

第11回：模擬授業についてのグループ研究（学習指導案検討）②

具体的事例を基に、教材研究を行うと同時に、学習指導案と模擬授業について、考察と演習を行う。

第12回：模模擬授業についてのグループ研究（学習指導案検討）③

図画工作科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用及び教材活用について考察する。

第13回：図画工作科の授業①

模擬授業、指導計画（表現の活動）と情報通信技術の効果的な活用

第14回：図画工作科の授業②

模擬授業、指導計画（鑑賞の活動）と情報通信技術の効果的な活用

第15回：まとめ

これまでの授業を総括し、学修内容について確認する。

定期試験は実施しない。

テキスト

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（平成29年6月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（80%）、発表（20%）

授業科目名： 家庭科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩下紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校家庭科の目標及び内容を理解し、教材研究の方法や授業の展開方法について学び、学習指導案をつくることことができる。小学校における家庭科教育の課題について認識を深め、家庭科教育の目的に沿った授業実践ができるようになる。			
授業の概要 家庭科指導要領解説書、小学校家庭科教科書、及び家庭科教育に関する専門書を参考に、指導する目標及び内容を把握する。更に学習指導案を作成し、グループワーク等を通して模擬授業を実施する。また、情報機器や教材を適切に活用しながら授業を実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業概要の説明 第2回：家庭科の目標及び内容 家庭科学習指導要領解説、家庭科の指導目標及び内容 第3回：家庭科の内容（1）食生活に関する内容について（その1）基礎・基本の知識と技能 第4回：家庭科の内容（2）食生活に関する内容について（その2）簡易調理実習の指導と実際 第5回：家庭科の内容（3）衣生活に関する内容について（その1）基礎・基本の知識と技能 第6回：家庭科の内容（4）衣生活に関する内容について（その2）生活に役立つものの製作指導 第7回：家庭科の内容（5）家族・家庭生活に関する内容について演習及び討論。評価の考え方について 第8回：家庭科の内容（6）消費生活・環境教育に関する内容について演習及び討論。評価の方法について 第9回：家庭科の授業（1）食生活に関する内容の指導計画の作成及び模擬授業の実施・討論 第10回：家庭科の授業（2）衣生活に関する内容の指導計画の作成及び模擬授業の実施・討論 第11回：家庭科の授業（3）家族・家庭生活に関する内容の指導計画の作成及び模擬授業の実施・討論 第12回：家庭科の授業（4）住生活に関する内容の指導計画の作成及び模擬授業の実施・討論 第13回：家庭科の授業（5）消費生活に関する内容の指導計画の作成及び模擬授業の実施・討論。ICTと家庭科 第14回：家庭科の授業（6）環境教育に関する内容の指導計画の作成及び模擬授業の実施・討論。ICTの活用法 第15回：まとめ 家庭科教育の授業のまとめ、レポート提出 定期試験			

テキスト

『小学校家庭科教育法』建帛社

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）

『小学校学習指導要領解説 家庭編』（平成29年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

課題・レポート・模擬授業（50％）、期末テスト（40％）、発表内容（10％）

授業科目名： 体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂下玲子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>* 体育科の目標・内容について説明することができる。</p> <p>* 体育科における教材づくりのポイントを理解し、教材づくりを行うことができる。</p> <p>* 体育授業における教師行動について理解を深め、説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>体育科についての理解を深め、体育を指導するうえでの基本的な知識を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学習する。</p> <p>体育科教育に関する基本的な事項については、講義やディスカッション形式で授業を行う。</p> <p>実技を伴う体育という教科の性質上実際の授業の様子DVD等を用いて授業を進め、授業づくりや教材づくりをグループワークを通して理解を深め、模擬授業や授業についてのプレゼンテーションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体育科の目標・内容 体育科の目標・内容について概説する。</p> <p>第2回：よい体育授業の条件 良い体育授業を行うための条件について概説する。</p> <p>第3回：体育授業における教材づくり 体育科における教材づくりの考え方及びICT機器の活用について概説する。</p> <p>第4回：器械運動・陸上運動の内容と指導 器械運動・陸上運動系の具体的な内容と指導について概説する。</p> <p>第5回：ボール運動系の内容と指導 ボール運動系の具体的な内容と指導について概説する。</p> <p>第6回：体づくり運動及び表現運動系の内容と指導 体づくり運動及び表現運動系の具体的な内容と指導について概説する。</p> <p>第7回：水泳運動の内容と指導／学習指導案作成のポイント 水泳系の内容と指導及び学習指導案作成のポイントを概説する。</p> <p>第8回：教師行動・指導技術 体育授業における教師行動・指導技術について概説する。</p> <p>第9回：保健の内容と指導 保健の具体的な内容と指導について概説する。</p> <p>第10回：教材づくり1 各内容による教材づくりの演習と討議（器械・陸上系）、評価の考え方</p> <p>第11回：教材づくり2 各内容による教材づくりの演習と討議（ボール運動・水泳系）、評価の方法</p> <p>第12回：教材づくり3 各内容による教材づくりの演習と討議（体づくり・表現系・保健）、PDC Aサイクル</p> <p>第13回：模擬授業1 模擬授業の実施と振り返りを行う。（器械・陸上系）</p>			

第14回：模擬授業2 模擬授業の実施と振り返りを行う。(ボール運動・水泳系)

第15回：模擬授業3 模擬授業の実施と振り返りを行う。(体づくり・表現系、保健)

定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)

『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成29年告示 文部科学省) 東洋館出版社

参考書・参考資料等

『体育科教育学入門 三訂版』(大修館書店、岡出・友添・岩田編著)

学生に対する評価

【平常点(態度・行動観察)】積極的な授業態度発表(10%)

【課題・レポート】要点を理解し、まとめている(20%)

【模擬授業・プレゼンテーション】発表内容、取り組み状況等(40%)

【定期試験】講義内容の理解度(30%)

授業科目名： 小学校英語教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本ソニア・島内 直英 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標：小学校英語で修得した外国語教授法の実践的応用力を身につける。英語の表現、語彙、歌、チャンツ、ゲーム、アクティビティなどの指導を通して学生自身の能力の向上、指導者としてのモチベーションと自信の向上を目標とする。			
授業の概要：子どもの特徴、小学校英語授業また外国語教育の理論ならびに方法論を理解した後、教科書のユニットセクションを指導する練習を行う。学生の一人が教員役、残りの学生が生徒役となり、全員の英語力と指導力の向上を図る。			
授業計画			
第1回（島内）：小学校英語教育法の概要（外国語教育の変遷と役割）と、中学校・高校との接続、小学校の授業についての復習			
第2回（島内）：小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語の復習と実践的応用（教材の特徴・構成及び選び方等）			
第3回（島内）：学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等）について理解し、学習指導案を立案方法の学修			
第4回（松本）：TPR を用いたクラスルーム・イングリッシュの指導			
第5回（松本）：フラッシュカードを使った語彙、ゲーム、アクティビティの指導			
第6回（松本）：ICT機器を活用した発音指導、音奏認識、フォニックス、歌、チャンツを使った発音指導			
第7回（松本）：Let's chant, Let's Sing ICT機器を活用した模擬授業			
第8回（松本）：ICT及びALTによるリスニング指導法			
第9回（松本）：Let's Listen Let's Try ICT機器を活用した模擬授業			
第10回（松本）：ALT とゲームやアクティビティを活用した題材の選定、教材研究の方法理解			
第11回（松本）：Let's Play, Activity, Small Talk ICT機器を活用した模擬授業			
第12回（松本）：授業の帯活動、文法指導			
第13回（松本）：絵本を読み聞かせの技術の復習			
第14回（松本）：絵本を読み聞かせのICT機器を活用した模擬授業			
第15回（松本・島内）：小学校英語のまとめ			
定期試験			
テキスト：「小学校英語の教育法 理論と実践」アレン玉井光江			
参考書・参考資料等：「Let's Try 1」「Let's Try 2」東京書籍 「New Horizon 5」「New Horizon 6」「Picture Dictionary」東京書籍 「Here We Go 5」「Here We Go 6」光村図書 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編」文部科学省 "Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligences" by Howard Gardner			
学生に対する評価 課題提出15%、小テスト15%、模擬授業30%、学期末の試験の総合評価40%			

授業科目名： 職場体験学修	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：香崎智郁代 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目では、保育現場での観察を通して、園や子どもの様子、保育者の子どもとの関わり方について基本的事項を学ぶ。この科目の到達目標は次の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の一日の生活を説明できる。 ・観察を通して、子どもを理解する。 ・保育者の子どもへの対応や言葉かけの方法を学ぶ。 			
<p>授業の概要</p> <p>・この科目では、各自が選択した実習園での実習を通して、子どもの様子を観察し、保育現場の現状や子ども理解を深める。また、保育者の子どもへの関わり方、援助の方法、保育者の保護者への支援の方法について具体的に理解する。さらに、キリスト教保育の在り方についても観察を通して学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 科目内容について説明をし、目的を理解する。</p> <p>第2回：実習に必要なマナー、注意点 基本的な生活習慣を振り返り、実習に必要な身だしなみやマナーを学ぶ</p> <p>第3回：実習園について 実習先の選択にあたって情報収集を行う。</p> <p>第4回：実習記録の書き方について① 実習記録の書き方について例を基に学ぶ。</p> <p>第5回：実習記録の書き方について② 視聴覚教材を基に、実習記録の書き方を修得する。</p> <p>第6回：教材作成について① 実習で使用する教材内容について知る。</p> <p>第7回：教材作成について② 実習で使用する教材を作成する。</p> <p>第8回：実習上の諸注意 実習での諸注意について学ぶ。</p> <p>第9回：各実習園での実習 実習を通して園の役割について学ぶ。</p> <p>第10回：各実習園での実習 実習園の子どもの様子について観察を通して学ぶ</p> <p>第11回：各実習園での実習 実習園の子どもの遊びについて観察を通して学ぶ。</p> <p>第12回：各実習園での実習 実習を通して保育者の役割について学ぶ。</p> <p>第13回：各実習園での実習 実習を通して保育者と保護者の関わりについて学ぶ。</p> <p>第14回：実習のまとめと報告① 実習日誌を振り返り、実習での学びをまとめる。</p> <p>第15回：実習のまとめと報告② 実習日誌の振り返りから自分の課題をまとめる。</p>			
テキスト 適宜、指示する。			
<p>参考書・参考資料等 保育実習ガイドブック 理論と実践をつなぐ12の扉 山崎喜代子 古野愛子 (編著) ミネルヴァ書房</p>			
学生に対する評価 発表内容 (40%) 実習園からの評価 (60%)			

授業科目名：器楽Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：水町 愛 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 課題に取り組むことを通し、基礎技能を習得するとともに、ト音譜表およびヘ音譜表を読み取り、弾き歌いの技術を身につけることができる。			
授業の概要 本演習では、保育・教育の実践において不可欠であるピアノ（および弾き歌い）の基礎技能を習得することを目標とする。「器楽Ⅰ」では、グループレッスンにより、演奏技術の基礎を学ぶ。与えられた課題に取り組むことを通し、日々の練習習慣を身につけ、読譜力を養い、ピアノ（および弾き歌い）の技術を向上させることを目指す。			
授業計画 第1回：講義概要とレッスンの進め方について 第2回：基礎技能の訓練 第3回：基礎技能の訓練 第4回：基礎技能の訓練 第5回：基礎技能の訓練 第6回：基礎技能の訓練 第7回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第8回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第9回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第10回：基礎技能の訓練,試験曲のレッスン 第11回：基礎技能の訓練,試験曲のレッスン 第12回：試験曲のレッスン 第13回：試験曲のレッスン 第14回：振り返りおよび次への課題の確認 第15回：実技試験のリハーサルとして、グループごとに発表会を行う 定期試験：実技（弾き歌い）			
テキスト 初心者：『標準バイエルピアノ教則本』（全音楽譜出版社） 経験者：『ブルグミュラー25の練習曲』、『ソナチネアルバム 1,2』、『ソナタアルバム』（全音楽譜出版社）他 共通：『こどものうた 200』／小林美実 編（チャイルド本社）			
参考書・参考資料等 小学校共通教材 ほか			
学生に対する評価 定期試験（70%）、練習状況・課題の達成状況（30%）			

授業科目名：器楽Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：水町 愛 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>課題に取り組むことを通し、ピアノの演奏技術および弾き歌いの技術を向上させ、「器楽Ⅰ」で習得したものよりもより高いレベルの曲を演奏することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本演習では、保育・教育の実践において不可欠であるピアノ（および弾き歌い）の基礎技能を習得することを目標とする。「器楽Ⅱ」では、グループレッスンにより「器楽Ⅰ」で習得した演奏技術をさらに向上させることを目指す。実践への応用力をつけるために、基礎技能を十分に伸ばすとともに、保育者・教育者としての音楽的資質や表現力を向上させることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義概要とレッスンの進め方について 第2回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第3回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第4回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第5回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第6回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第7回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第8回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第9回：基礎技能の訓練,弾き歌いのレッスン 第10回：基礎技能の訓練,試験曲のレッスン 第11回：基礎技能の訓練,試験曲のレッスン 第12回：試験曲のレッスン 第13回：試験曲のレッスン 第14回：振り返りおよび次への課題の確認 第15回：実技試験のリハーサルとして、グループごとに発表会を行う 定期試験：実技（弾き歌い）試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>個別：「器楽Ⅰ」からの（個々のレベルに応じた）教材を継続して使用 共通：『続こどものうた 200』／小林美実 編（チャイルド本社）</p>			
<p>参考書・参考資料等 小学校共通教材 ほか</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（70%）、練習状況・課題の達成状況（30%）</p>			

授業科目名： チャイルドケア・ゼミ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金戸清高 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期のフレッシュマンゼミの学びをふまえ、意欲的に専門教育の学びに向かい、幼稚園教諭として求められる人間力や倫理観、モラルを高め、幼稚園教諭としての基礎を身に付ける。 ・幼稚園教諭として求められる専門性を身に付けるための過程を理解し、目標や見通しを持って学生生活を送ることができる。 ・幼稚園教諭のロールモデルを持ち、将来に向けた学びの基盤を自分なりにつくることのできる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本学保育・幼児教育専攻学生としての意識や自覚を高め、学問の追求と人格の陶冶を目指し、社会の一員としての人格形成の基礎を培う。また、保育者を目指す上で身につけておくべき基礎的な学力の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：課題発表1 夏期休業中に課せられた保育・幼児教育に関わる研究課題についての発表 第2回：課題発表2 夏期休業中に課せられた保育・幼児教育に関わる研究課題についての発表 第3回：課題発表3 夏期休業中に課せられた保育・幼児教育に関わる研究課題についての発表 第4回：課題発表4 夏期休業中に課せられた保育・幼児教育に関わる研究課題についての発表 第5回：行事について1 こどもフェスティバルへの取り組みや保育素材の作成等 第6回：行事について2 こどもフェスティバルへの取り組みや保育素材の作成等 第7回：外来講師による講話1 幼児教育の学びの根幹について 第8回：外来講師による講話2 幼稚園・認定こども園で求められる人材（併設幼稚園より） 第9回：外来講師による講話3 保育所で求められる人材（付属園より） 第10回：外来講師による講話4 子どもの人権（熊本市人権教育課より） 第11回：外来講師による講話5 子どもの情緒を育む保育ギジュル 第12回：外来講師による講話6 先輩の体験談に学ぶ 第13回：フォローアップ1 学修成果の個別点検（各アドバイザーによる） 第14回：フォローアップ2 学修成果の個別点検（各アドバイザーによる） 第15回：総復習および質疑応答 これまでの講義を総括し、理解を深める 定期試験：期末レポート（各回にレポート提出を課す）</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜プリントを配布</p>			

参考書・参考資料等

ほいコレナビ「保育学生が就職前に準備しておくべき6つのコト」 (<https://hoikucollection.jp/information/post/4831/>)

田上貞一郎「保育者になるための国語表現」 (萌文書林)

長島和代編「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」 (わかば社)

学生に対する評価

小レポート (50点) 、発表内容 (30点) 期末レポート (20点)

授業科目名： 障害児保育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永野典詞 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業のテーマは、障害児（障害の有無に関係なく、配慮が必要な子どもも含めて）が幸せに生活できるための保育のあり方を考え、実践できるようになることである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害」とは何かを多角的な視点から検討し、自分なりの答えを表現し説明することができる。 ・保育現場において、「障害」を解消するための環境設定や関わりについて実践する基礎を養う。 ・家族や地域の「すべての人にとって幸せな保育」とは何かを考える重要性を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>障害児保育を支える理念や歴史的変遷を学び、障害児保育について理解する。また、障害種別、その特性、発達等に応じた援助や配慮について理解する。さらに、「障害」は個人だけの問題ではなく、社会全体の問題であることを踏まえ、「障害」の問題を自分事としてとらえ、「障害」を解消し、すべての人を包括する保育のあり方について共に考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション シラバスと授業の進め方、授業の取り組みについて</p> <p>第2回：障害児保育の理念① 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷</p> <p>第3回：障害児保育の理念② 障害のある子どもの地域社会への参加・包容</p> <p>第4回：障害児の理解と保育における発達援助① 身体障害、知的障害の理解と援助</p> <p>第5回：障害児の理解と保育における発達援助② 発達障害児の理解と援助（ADHD・LD）</p> <p>第6回：障害児の理解と保育における発達援助③ 発達障害児の理解と援助（広汎性発達障害等）</p> <p>第7回：障害児の理解と保育における発達援助④ 重症心身障害児、医療的ケア児等の理解と援助</p> <p>第8回：障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際① 指導計画及び個別支援計画作成</p> <p>第9回：障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際② 生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合い、職員間の連携・協働</p> <p>第10回：家庭及び自治体・関係機関との連携① 保護者や家族に対する理解と支援</p> <p>第11回：家庭及び自治体・関係機関との連携② 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援</p> <p>第12回：家庭及び自治体・関係機関との連携③ 障害児支援の制度の理、小学校等との連携解等</p> <p>第13回：障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題① 保健・医療における現状と課題</p> <p>第14回：障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題② 福祉・教育における現状と課題、支援の場の広がりなど</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p>			

定期試験：授業内容の総括として定期試験レポートを課す。

テキスト 後日指示する。

参考書・参考資料等 後日指示する。

学生に対する評価

課題/レポート（30%）、発表内容（30%）、定期試験（40%）

授業科目名： ICT活用指導論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：赤井秀行 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、「今日の学校教育に求められる情報通信技術（ICT）活用について、学習指導だけでなく校務等の様々な活用場面を取り上げ、実践的な活用力・指導力を育成すること」をテーマとし、下記の3点を到達目標として設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校務におけるICT活用の有用性の理解を踏まえ、具体的な活用場面について考え、実践することができる。 2. 各教科・領域の特性を踏まえ学習指導の様々な場面において、児童及び教員の有効なICT活用を取り入れた実践を行うことができる。 3. 主体的・対話的で深い学びを促進するためのICT活用について考え、実践することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>3年次に履修したICT活用指導論Ⅰの学修内容を基盤とし、小学校での教育活動における具体的なICT活用場面について考察及び、実践する。特に「主体的・対話的で深い学びを促進する」という視点から、教師及び児童のICT活用について考察するとともに、様々な教科や特別活動を題材とした模擬授業を通して、実践的なICT活用指導力を育成する。また、学習指導におけるICT活用に加え、校務におけるICT活用についても講義・演習の題材として取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校現場におけるICT活用の実際</p> <p>第2回：デジタルコンテンツの活用</p> <p>第3回：学習データの収集と活用</p> <p>第4回：遠隔授業・オンライン教育における教材作成</p> <p>第5回：遠隔授業・オンライン教育の実践</p> <p>第6回：プログラミング教育の実践</p> <p>第7回：授業実践における教師のICT活用</p> <p>第8回：授業実践における児童のICT活用の設計－協働的な学びの場面</p> <p>第9回：授業実践における児童のICT活用の実践－協働的な学びの場面</p> <p>第10回：特別な教育的支援の視点からのICT活用</p> <p>第11回：校務におけるICT活用</p> <p>第12回：ICTを活用した模擬授業①－算数科・理科</p> <p>第13回：ICTを活用した模擬授業②－国語科・社会科</p>			

第14回：ICTを活用した模擬授業③－特別活動・外国語科

第15回：情報モラル・情報セキュリティに関する指導

テキスト

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして（稲垣 忠・佐藤和紀編著、北大路書房）

学生に対する評価

講義内容に関するレポート（40％）・毎回の講義に関する振り返り小レポート（60％）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：徳永達哉 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>到達目標は、日本国憲法の条文に体现された公理を理解し解説できるようになることです。具体的には、公務員採用試験の地方上級・国家一般レベルの憲法択一問題・論述問題であれば資料が無くても解けるようになることです。（※問題の難易度は、教科書の内容を十分に理解していれば易々と解答できる程度です。）</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法に関する基礎的な知識を学習し、憲法に対する理解を深めるための講義を行います。講義は3つの領域から構成されます。第1は日本国憲法と社会生活の関わり、第2は日本国憲法の歴史的源流、第3は憲法の構造と機能です。これらの領域で語られている日本国憲法の公理は、条文のなかに体现されております。そこで、条文の逐語解説を中心に講義を進めることといたします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本国憲法と社会生活（1）憲法とは何か？</p> <p>第2回：日本国憲法と社会生活（2）法の支配と三権分立</p> <p>第3回：日本国憲法と社会生活（3）市民革命と社会契約</p> <p>第4回：日本国憲法の歴史的源流（1）国民主権とは何か？</p> <p>第5回：日本国憲法の歴史的源流（2）国民主権と個人の尊厳</p> <p>第6回：日本国憲法の歴史的源流（3）制限規範としての憲法</p> <p>第7回：日本国憲法の機能と構造（1）人権－基本的人権</p> <p>第8回：日本国憲法の機能と構造（2）人権－公共の福祉</p> <p>第9回：日本国憲法の機能と構造（3）人権－法の下での平等</p> <p>第10回：日本国憲法の機能と構造（4）人権－思想・良心</p> <p>第11回：日本国憲法の機能と構造（5）人権－信仰・表現</p> <p>第12回：日本国憲法の機能と構造（6）統治－国会</p> <p>第13回：日本国憲法の機能と構造（7）統治－内閣</p> <p>第14回：日本国憲法の機能と構造（8）統治－司法</p> <p>第15回：日本国憲法と国際人権 憲法・人権・統治のまとめ 事例演習課題の解説</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>安藤高行編『新 エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）</p>			

参考書・参考資料等

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）

判例六法（有斐閣）など六法と呼ばれている法律集、法律用語辞典など

学生に対する評価

課題・レポート（30%）、定期試験（70%）

授業科目名： 健康科学論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井崎美代、伊藤雅浩
			担当形態：オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①「健康」について認識を深め、生涯を通じて健康な生活を維持していく資質を高めることができる。</p> <p>②自分のからだやその身体活動について理解を深め、活力ある生き方を体現するための学びを深めることができる。</p>			
授業の概要			
あらゆる活動を支える基盤としての「健康」について認識を深め、生涯を通じて健康な生活を維持していく資質を高める。また、自分のからだやその身体活動について理解を深め、活力ある生き方を体現するための学びを深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 健康へのいざない【担当：井崎】			
第2回：救急救命と応急処置【担当：井崎】			
第3回：からだの機能【担当：伊藤】			
第4回：呼吸の役割【担当：伊藤】			
第5回：栄養の消化と吸収【担当：伊藤】			
第6回：老廃物の排泄【担当：伊藤】			
第7回：血液の成分とその働き【担当：伊藤】			
第8回：加齢とからだ【担当：井崎】			
第9回：健康管理1【担当：井崎】			
第10回：健康管理2【担当：井崎】			
第11回：運動しないとどうなるか【担当：井崎】			
第12回：運動の効果【担当：井崎】			
第13回：性感染症【担当：井崎】			
第14回：妊娠と出産【担当：井崎】			
第15回：まとめ【担当：井崎】			
テキスト 必要に応じて資料を配布します			
参考書・参考資料等 ①「いざというときのために応急手当の知識と技術を身につけておきましょう（政府広報オンライン）令和元年（2019年）8月13日②eラーニングで応急手当の基本を学べます「一般市民向け 応急手当WEB講習」（消防庁）など			
学生に対する評価 課題（要点を理解し、まとめている）（100%）			

授業科目名： スポーツ実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：井崎美代 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①レクリエーション種目の体験を通して、身体活動の幅を広げることができる。</p> <p>②運動の意義や自分自身の生涯スポーツ（生活の中にかにスポーツを取り入れていくかなど）についても考えていくことができる。</p>			
授業の概要			
<p>多様なレクリエーション種目の中から、屋外で実施できるニュースポーツ種目を中心に体験する。また、室内での活動としてはエアロビックやレクリエーション財を活用した遊びやゲームを体験する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：ウォーキング			
第3回：ニュースポーツについて			
第4回：グラウンドゴルフ			
第5回：グラウンドゴルフ			
第6回：グラウンドゴルフ			
第7回：ターゲットバードゴルフ			
第8回：ペタンク			
第9回：ティーボール			
第10回：フライングディスク			
第11回：エアロビック			
第12回：エアロビック			
第13回：エアロビック			
第14回：エアロビック			
第15回：まとめ			
テキスト			
必要に応じてプリントを配布します			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
各課題の達成状況（40%）、毎時間のレポート課題（60%）			

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本幹樹 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な英語運用能力を獲得する。文法、語彙、発音面でしっかり基礎学習することにより英語の4技能を習得し、英語で日常レベルのコミュニケーションが出来るようになる。			
授業の概要 英語の文法、語彙、発音を強化しながら、英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく高めていく。日常の場面で使用される表現を多く学び、基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：過去完了形 第3回：助動詞1 第4回：関係代名詞1 第5回：現在進行形 第6回：助動詞2 第7回：分詞 第8回：これまでの復習及び中間発表 第9回：仮定法 第10回：現在完了形 第11回：動名詞 第12回：受動態 第13回：関係代名詞2 第14回：使役動詞 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 『Communicate in English with The Devil Wears Prada/ 『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』 Aline Brosh McKenna著 角山照彦、Simon Capper編著 松伯社 ISBN:978-4-88198-712-4			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 各Unitの復習テストや課題（40%）、試験（60%）			

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中恵理 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な英語力が向上する ・ 日常レベルのコミュニケーションができるようになる ・ 学んだことを自分の言葉で表現できるようになる 			
<p>授業の概要</p> <p>英語を使用する上で欠かせない4技能（読む力・書く力・聞く力・話す力）を統合的に活用しながら、英語の基礎力をアップすることを目指します。授業では、各ユニットで学ぶ表現や会話をグループワークなどで使用することで読む力や聴く力、英語コミュニケーション能力を高めます。また、例文を参考にしながら、自分について書き発信する力を養います。なお本講義では、Moodleを使用した英作文および添削とCheckLinkを活用した練習問題を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス、現在時制、Vocabulary: Travel</p> <p>第2回：現在時制、代名詞、Vocabulary: Travel、Homestay English</p> <p>第3回：前置詞、Vocabulary: At a company</p> <p>第4回：過去時制、Vocabulary: Entertainment</p> <p>第5回：可算・不可算名詞、Vocabulary: Shopping</p> <p>第6回：Wh疑問文、Vocabulary: Technology</p> <p>第7回：進行形、Vocabulary: Daily life</p> <p>第8回：助動詞、Vocabulary: Environment</p> <p>第9回：Will & Be going to、Vocabulary: Employment</p> <p>第10回：比較級&最上級、Vocabulary: Sales & Marketing</p> <p>第11回：現在完了、Vocabulary: Job interview</p> <p>第12回：接続詞、Vocabulary: Company culture</p> <p>第13回：動名詞&不定詞、Vocabulary: Email</p> <p>第14回：受動態、Vocabulary: Housing</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『English Booster! : ストーリー&必須文法で学ぶ大学生の英語基礎力スタートアップ』、金星堂、Robert Hickling、市川泰弘著、ISBN978-4-7647-4113-3</p>			

参考書・参考資料等

授業内で紹介します。

学生に対する評価

小テスト・英作文での課題（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 情報基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保幸貴 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>Microsoft Word2016を用いた簡単な文書作成及び Microsoft Excel2016を用いた簡単な表計算の入力と作成ができ、パソコン、ワープロ、ビジネス文書及び情報倫理・リテラシーが修得できる。</p>			
授業の概要			
<p>WordおよびExcelの基礎力の充実として、テキストにWord文書処理技能認定試験3級問題集を用い、実用的技能の修得を目指した演習を行い、Excelについては基礎的な内容を取り扱う。また、コンピュータを使った情報処理を行う上での倫理（マナー）・リテラシーについても触れる。</p> <p>※8月に実施される予定の（株）サーティファイが主催する資格検定試験のWord文書処理技能認定試験で3級以上に合格した学生に対して、評価点が60～79点の場合は80点に修正する（規程の出席回数は満足しておかねばならない）。ただし、Word文書処理技能認定試験の受験は必須ではない。</p>			
授業計画			
第1回：導入 オリエンテーション			
第2回：Word検定対策（1）Word2016の3級問題集を使った演習			
第3回：Word検定対策（2）練習問題1の実技復習			
第4回：Word検定対策（3）練習問題2			
第5回：Word検定対策（4）練習問題3の解答例の予習			
第6回：Word検定対策（5）模擬問題1			
第7回：Word検定対策（6）模擬問題2			
第8回：Word検定対策（7）模擬問題3			
第9回：Wordの総合演習的な問題による中間試験			
第10回：Excel基礎（1） 入力の方法，セルの書式設定			
第11回：Excel基礎（2） 相対参照，絶対参照の概念			
第12回：Excel基礎（3） 関数とグラフ機能の使い方			
第13回：情報倫理			
第14回：タイピング評価及び検定試験対策			
第15回：定期試験対策及びまとめ			
定期試験			

テキスト

『Word文書処理技能認定試験3級問題集（2016対応）』（ISBN 978-4-907893-19-4）

（株）サーティファイ

参考書・参考資料等

『Word2016クイックマスター（応用編）』、『Excel2016クイックマスター（基本編）』

（株）ウィネット

学生に対する評価

平常点（授業参加態度）（50%）、課題（タイピング試験における2段階評価）（5%）、
中間試験（23%）、定期試験（22%）

授業科目名： 情報活用基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保幸貴 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[授業のテーマ] 実習を通して基本的な情報機器であるPCの操作に慣れ、データ操作および統計処理などを行うためのアプリケーション” Excel” の操作に習熟する。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PCを用いた” Excel” の操作に習熟する。 2. Excelを用いたデータを適切に扱えるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>Excelの応用力の技術修得として、基本的なExcelの利用法を確認した後、応用編により実用的で高度な使い方を修得する為に教科書に沿った実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：タイピングとEXCEL基礎の復習（セル書式設定、相・絶対参照の概念及びデータベース機能など）</p> <p>第2回：入力補助機能（データの入力規則等、表示形式、条件付き書式設定）</p> <p>第3回：入力補助機能（名前の定義、データの保護、検索と置換等）</p> <p>第4回：関数1（文字列操作、データベース、検索・行列関数）</p> <p>第5回：関数2（数学・三角、統計関数）</p> <p>第6回：関数3（論理、日付、情報関数）</p> <p>第7回：グラフ機能（グラフの拡張、データ予測）</p> <p>第8回：複数ワークシートの集計（ワークシートの連携、ワークシート間の集計）</p> <p>第9回：データベース1（オートフィル、データの並び替え）</p> <p>第10回：データベース2（複雑な条件による抽出、小計機能）</p> <p>第11回：データの分析（ワークシートの分析、ピボットテーブル）</p> <p>第12回：データの分析（値を代入した表の作成、ゴールシーク）</p> <p>第13回：処理の自動化（マクロ）</p> <p>第14回：タイピング評価及び定期試験対策</p> <p>第15回：授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『Excel 2019 クイックマスター（応用編）』（ISBN 978-4-87284-824-3）（株）ウィネット</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

『Excel 2019 クイックマスター（基本編）』（株）ウィネット

学生に対する評価

【平常点（態度・行動観察）】授業参加態度（45%）

【課題】タイピング試験における2段階評価（5%）

【定期試験】（50%）

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡村健太 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的概念及びその関係を説明できる。 ・教育史及び教育思想に関する基礎的知識を身に付ける。 ・現代における教育課題について主体的に考察できる。 ・教育の本質に関心をもち、探究し続ける態度を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では教育に関する基礎的な学びとして、教育の基本的概念とは何か、教育はどのような歴史を経たか、また歴史の中でどのような思想が生まれたか、以上の3点を中心に扱う。特に、子ども・教師・家庭・学校・社会といった、教育を構成している諸要素の関係性・変遷・課題について学んでいく。それらの学びを通して、教育は何を目指すのか、どのような教育が「よい」といえるのかという、教育に関する理念について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育とは何か①（教育の本質とは何か）</p> <p>第2回：教育とは何か②（自身の教育経験をどう扱うか）</p> <p>第3回：教育とは何か③（教育における諸概念の整理）</p> <p>第4回：西洋教育史①（教育の担い手の変遷）</p> <p>第5回：西洋教育史②（近代教育制度の成立）</p> <p>第6回：日本教育史①（江戸時代から明治時代）</p> <p>第7回：日本教育史②（大正時代から現代）</p> <p>第8回：西洋教育思想①（コメニウス・ロック・ルソー）</p> <p>第9回：西洋教育思想②（ペスタロッチ・ヘルバルト・フレーベル）</p> <p>第10回：西洋教育思想③（デューイ・モンテッソーリ・イリッチ）</p> <p>第11回：日本教育思想（貝原益軒・澤柳政太郎・城戸幡太郎）</p> <p>第12回：現代の教育①（新教育運動と現代の諸学校）</p> <p>第13回：現代の教育②（日本のオルタナティブスクール）</p> <p>第14回：現代の教育課題①（「学び」の本質とは何か）</p> <p>第15回：現代の教育課題②（教育の「よさ」とは何か）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト なし。			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>安彦忠彦・藤井千春・田中博之（2020）『新版よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房。</p> <p>その他、授業内で適宜資料を配布する。</p>			

学生に対する評価

定期試験（55%）、レポート（30%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（15%）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：緒方宏明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教職を目指す者として、その意義や教員の役割、資質能力、職務内容等について認識を深めながら自らの適性について考え、個性を生かすことも含めて教職という進路選択のあり方を理解し検討することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職に対する社会のまなざしや法的根拠をもとに、教職の意義を理解した上で教員の役割や教員に求められる資質能力について理解し、他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。また、教員の職務内容について、幼児や児童への保育・教育のあり方をもとに考察を深めるとともに、いじめ問題や事故・災害等の危機問題への対応についてチームとしての学校運営のあり方を検討する。各回の講義後、授業のポイントについてグループワークを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 教職の意義①：講義の進め方を説明。教職へのまなざしについて。 第2回：教職の意義②：教職に対する受験生や社会のまなざし。 第3回：教職の意義③：教職への社会のまなざし。教師を取り巻く環境の変化。 第4回：教職の意義④：法制度のまなざし。子どもへの責任と社会的要請。 第5回：教員の役割①：子どもを理解するということ。 第6回：教員の役割②：保育者は活動・授業をどのように作るか。 第7回：教員の役割③：保育者の表現力（パフォーマンス）。 第8回：教員の職務内容①：幼稚園での子どもの生活。 第9回：教員の職務内容②：保育者の1日。 第10回：教員の職務内容③：保育者が抱える課題とその対応。 第11回：教員の職務内容④：今後望まれる保育者の仕事のあり方。 第12回：チーム学校への対応①：保育者集団のあり方。 第13回：チーム学校への対応②：いじめや災害などの危機への対応。 第14回：チーム学校への対応③：専門家や他機関との連携。保護者対応のロールプレイを行う。 第15回：授業のまとめ：授業全体を振り返る。レポート作成法を確認し、計画する。</p>			
テキスト 『教職論』、木山徹哉・太田光洋 編著、ミネルヴァ書房、ISBN4623080323			
参考書・参考資料等			
授業中に参考資料を配付			

学生に対する評価

配付資料への記録（40％）、毎回のミニレポートや課題レポートの内容（40％）、授業への積極的な取組状況（20％）

授業科目名： 教育経営学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：緒方宏明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代の学校教育に関する社会的、経営的事項についての基礎的な知識を身につけ、それらに関する課題を理解するとともに、学校と地域との連携や学校安全への対応に関する基礎知識を身に付けることができる。			
授業の概要 教育に関する社会的事項として、学校を巡る状況や子どもの生活の変化に対する教育政策の動向等を学ぶとともに、経営的事項として学校や学級の経営、PDCAサイクルの重要性を学ぶ。さらに教育経営として重要な地域との連携・協働、学校安全への対応のあり方等の認識が深められるよう授業を進める。各回の講話終了後、授業のポイントについてグループワークを行う。			
授業計画 第1回：リエンテーション、教育に関する社会的事項①：学校を巡る近年の様々な状況の変化。 第2回：教育に関する社会的事項②：子どもの生活の変化と指導の課題。 第3回：教育に関する社会的事項③：近年の教育政策の動向。 第4回：教育に関する社会的事項④：諸外国の教育事情や教育改革の動向。 第5回：教育に関する経営的事項①：公教育の目的を実現するための学校経営のあり方。 第6回：教育に関する経営的事項②：教育活動の流れと学校評価におけるPDCAの重要性。 第7回：教育に関する経営的事項③：学級経営の仕組みと効果的な方法。 第8回：教育に関する経営的事項④：教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働。 第9回：学校と地域との連携意義や地域との協働①：地域との連携・協働による教育活動。 第10回：学校と地域との連携意義や地域との協働②：地域との連携による開かれた学校づくり。 第11回：学校安全への対応①：学校管理下における事件、事故の危機管理・事故対応。 第12回：学校安全への対応②：生活・交通・災害の各安全や新たな安全上の課題への具体的取組。 第13回：学校安全への対応における地域との連携・協働①：じめ問題等への危機対応を通して。 第14回：学校安全への対応における地域との連携・協働②：熊本地震等の災害の危機対応を通して 第15回：授業のまとめ：全体の復習とまとめ、課題レポート等の提出。			
テキスト 授業者が作成したレジュメに沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等 授業中に参考資料を配付			

堀内孜 編『公教育経営概説』（学術図書出版、加藤崇英他編著）、『教育の組織と経営』（学事出版、小川正人・勝の正章著）、『教育経営論』（日本放送出版協会、その他）

学生に対する評価

配付資料への記録（40%）、毎回のミニレポートや課題レポートの内容（40%）、授業への積極的な取組状況（20%）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：緒方宏明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学の考え方を身につけることができる。 ・教育心理学の理論や知識を自分の言葉で説明できる。 ・教育心理学の理論や知識が乳幼児期・児童期・青年期の教育や発達にどのようなかわりをもつかを考えることができる。 			
授業の概要			
<p>教育において提起される問題を心理学の立場から究明し、教育保育の進展に起用しようとする学問であり、教育に携わろうとするものが身につけておくべき重要な科目である。教育心理学における基本的な理論を理解するとともに現実のさまざまな心理的課題や問題を学んだ理論から分析し、よりよい教育のあり方を模索する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、教育心理学とは① 第2回：教育心理学とは②：さまざまな心理学と教育心理学教職の意義 第3回：教育心理学とは③：課題・研究と学ぶ意義 第4回：研究・心理測定の方法①：観察法、実験法、質問紙法 第5回：研究・心理測定の方法②：評定法、テスト法、連想法 第6回：研究・心理測定の方法③：社会的測定法、面接法 第7回：研究・心理測定の方法④：事例研究法、投影法 第8回：学習①：S-R理論、S-S理論 第9回：学習②：モデリング、ピグマリオン効果、内発的・外発的動機づけ 第10回：学習③：記憶、忘却 第11回：発達①：遺伝、環境、成熟、輻輳説、環境閾値説、シエマ理論 第12回：発達②：ピアジェ、フロイト、エリクソンの理論 第13回：発達③：思いやりと自己主張、遊びと学習、主体的な学習 第14回：いじめや不登校等の問題：心理教育的アセスメント 第15回：授業のまとめ：全体の復習とまとめ、課題レポート等の提出</p>			
テキスト			
授業者が作成したレジュメに沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等			
授業中に参考資料を配付			

・教育心理学 祐宗省三編著 北大路書房、教育心理学 鈴木康平他 北大路書房、その他

学生に対する評価

配付資料への記録（40％）、毎回のミニレポートや課題レポートの内容（40％）、授業への積極的な取組状況（20％）

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：河田将一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解し例示することができる。</p> <p>②特別支援教育にかかる教育課程や支援方法を理解し例示することができる。</p> <p>③特別支援教育の体制整備、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成、他機関等との連携について、その他必要性と方法を理解し説明することができる。</p> <p>④母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズに対しての組織的対応の必要性を理解し説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童（生徒）が通常の学級にも在籍している現状を踏まえ、当該幼児児童（生徒）が主体的に学習し、生きる力を身に付けていくために、彼らの学習上又へ生活上の困難を理解した上で、個別の教育的ニーズを把握し、園・学校総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：障害特性の理解と支援方法（1）特別支援教育の対象、在籍数、アセスメント等</p> <p>第2回：障害特性の理解と支援方法（2）アセスメントに基づく理解、指導支援に必要なこと等</p> <p>第3回：障害特性の理解と支援方法（3）障害特性を踏まえたUDの視点での指導・支援等</p> <p>第4回：特別支援教育の教育課程 インクルーシブ教育システム、就学先決定プロセスに関する理解</p> <p>第5回：特別支援教育の体制整備 連携、教育課程（特別支援学校・学級、自立活動等の位置づけ）</p> <p>第6回：特別支援教育の体制整備 通級による指導の内容、個別の指導計画・教育支援計画の作成等</p> <p>第7回：知的障害のある児童への特別な教育的対応 各教科等を合わせた指導とその内容等</p> <p>第8回：特別な教育的ニーズの理解と対応、及び総括講義</p> <p>試験（総括レポート）とその振り返り</p>			
テキスト			
毎回、講義データを書き取り又は資料を配布し、1冊のテキストが完成できるようにする。			
参考書・参考資料等			
特別支援教育研究（東洋館出版社：月刊）、実践障害児教育（学研：月刊）、特別支援教育（文部科学省：季刊）など			
学生に対する評価			
自己チェック表による授業態度、ノート・メモの取り方（20%）、毎時間の終了時に行う振り返りの記入内容（30%）、試験（総括レポート課題）の素点（50%）			

授業科目名： 幼児教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三井真紀 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領の位置づけ・変遷・目的・改訂内容について、その社会的背景や社会における役割を踏まえ理解できる。 ・ 教育課程の基本的な理解および領域の考え方を理解し、具体的な指導計画等を作成・検討することができる。 ・ 幼児教育から就学期につながるカリキュラム・マネジメントの意義・評価の基本的な考え方が理解できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼児教育における教育課程についてその意義や編成方法を学びながら、各園の実態に合わせたカリキュラム・マネジメントの作成について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程とは何か：教育課程とは何か、その意義と役割 2. 幼児教育の基本と教育課程：教育課程の編成の基本的な考え方 3. 幼児教育の変遷と教育課程：幼児教育内容の歴史的系譜および現代の教育課程のつながり 4. あそびと学び：教育課程における遊びの位置づけと小学校への接続 5. 幼稚園教育の内容と領域：教育課程における領域の基本的な考え 6. 発達の理解と教育課程の編成：幼児期の発達と教育課程 7. 特色ある教育課程：特色ある教育課程について 8. 教育課程の評価と改善①：カリキュラム・マネジメントの基本的考え方と意義 9. 教育課程の評価と改善②：カリキュラム・マネジメントの実際と課題 10. 幼稚園における教育課程の実態：幼稚園における幼児教育とカリキュラムの実態（事例検討） 11. 園生活における指導計画の作成①：指導計画の意義と目的 12. 園生活における指導計画の作成②：指導計画の作成練習と実践（模擬保育の実演） 13. 海外の教育課程①：アジア諸国の教育課程およびカリキュラム・マネジメントの紹介 14. 海外の教育課程②：欧米諸国の教育課程およびカリキュラム・マネジメントの紹介 15. 教育課程における現代的課題：日本の教育課程における課題 <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 26 年 12 月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）</p>			
<p>参考書・参考資料等 適宜指示する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>テスト（小テスト含む）（50%）・課題（50%）</p>			

授業科目名： 幼児教育方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三井真紀 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育方法の基礎的理論と実践を理解できる。 ・幼稚園生活における児童、教材、クラス等保育を構成する基本的な要件を理解し、保育評価の理解ができる。 ・育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解し、体験との関連を考慮しながら情報機器を効果的に活用することができる。 			
授業の概要			
幼稚園生活において、生きる力の基礎となる資質・能力の基礎を育むための教育の方法や技術の基礎を身につけるとともに、就学期以降の教育を見据えた教育の意義や編成について、歴史的変遷を理解しながら学修する。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育における基本 幼児教育方法で学ぶ方向の理解および基本的知識の確認 2. 幼児期にふさわしい生活 幼児期に育みたい資質・能力（討論） 3. 幼児の主体性 幼児期の主体的な生活を基盤とする幼児教育 4. 遊びの中の学び 遊びの中から学びを育む幼児教育方法 5. 方法としての形態 幼児教育方法としての様々な幼児教育形態 6. 幼児教育の評価 幼児教育における評価の目的、種類、方法 7. 幼児期から学童期へ 幼児期から学童期へその方法（グループワークおよびロールプレイング） 8. 幼児期と地域社会 地域と連携した保育方法（グループによる課題発表、板書の練習） 9. 幼児期と家庭生活 家庭と連携した保育方法（グループによる課題発表、板書の練習） 10. 子育て支援と家族支援 子育て支援の具体的な方法と課題（連絡帳の記載方法と演習） 11. 幼児期と情報機器 子どもの体験と情報機器教材の活用方法およびモラル教育（話法指導） 12. 諸外国の幼児教育方法① アジアの幼児教育方法の紹介 13. 諸外国の幼児教育方法② 欧米の幼児教育方法の紹介 14. 諸外国の幼児教育方法③ オーストラリア、アフリカの幼児教育方法の紹介 15. 幼児教育方法における現代的課題 日本における保育・幼児教育における基本的方向と課題 			
定期試験			
テキスト			
幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成26年12月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価			
テスト（小テスト含む）（50%）・課題（50%）			

授業科目名： 幼児理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三井真紀 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解の意義を理解し、学びを支えるための原理と幼稚園教諭としての基礎的な態度を獲得できる。 ・観察と記録の意義、目的、方法が分かり、身に付く。 ・幼児のつまずきや保護者の心情を総合的に理解することができ、その背景を考え解決する方法を探ることができる。 			
授業の概要			
<p>幼児理解は、幼稚園教育の基本的理解を支える科目であることを鑑み、幼児の生活や遊びの実態に即して、発達や学びの家庭でのつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることを目指す。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児理解の基盤 幼児理解とは何か（ディスカッション） 2. 幼児教育と幼児理解 幼児理解のための基本的知識の確認 3. 子どもの世界の理解 内なる世界と外なる世界とは？ 4. 子どもの生活と幼児理解 子どもの生活を理解する 5. 幼児理解と臨床 カウンセリングマインドの基本（ロールプレイによるカンファレンスの体験） 6. 幼児理解と地域・家庭との連携 子育て支援としての総合的な幼児理解 7. 幼児理解の歴史 幼児理解の歴史の変遷 8. 幼児理解と発達の理解 幼児理解に必要な発達の理解 9. 幼児理解と幼稚園教諭 幼児理解のための幼稚園教諭の基本的姿勢 10. 幼児理解における観察と記録① 観察と記録の基本、意義、目的（ビデオ映像を使った演習） 11. 幼児理解における観察と記録② 観察と記録の実践、方法、考察（ビデオ映像を使った演習） 12. 幼児理解における個と集団 個と集団の関係をとらえる意義や方法（討論） 13. 幼児のつまずき 幼児のつまずきとその背景 14. 保護者の理解 保護者の品上と基本的な対応の方法(ロールプレイによる保護者対応の演習) 15. 幼児理解における現代的課題 幼児理解をとりまく現代的な課題の紹介、分析 			
定期試験			
テキスト			
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 26 年 12 月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価			
テスト（小テスト含む）（50%）・課題（50%）			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：緒方宏明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 学校現場における教育相談について、その意義・役割を理解するとともに、問題行動や不適応など様々な状況に陥る幼児・児童及び生徒や保護者についての理解の方法及び心理サポートの理論や技法を身につけることができる。			
授業の概要 幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育むため、その教育活動のあり方や幼児、児童及び生徒の発達の状況に即した心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、教育相談の意義と理論①：教育相談の意義と課題 第2回：教育相談の意義と理論②：教育相談に関わる心理学の基礎的理論・概念 第3回：教育相談の意義と理論③：家族心理学と家族システム論 第4回：教育相談の方法①：幼児・児童・生徒の発するシグナルとアセスメント 第5回：教育相談の方法②：カウンセリング・マインドの必要性 第6回：教育相談の方法③：カウンセリングの基礎的な姿勢や技法 第7回：教育相談の展開①：学校の組織（チーム学校）を生かした展開 第8回：教育相談の展開②：幼児・児童・生徒への教育相談（カウンセリング）の進め方 第9回：教育相談の展開③：保護者への教育相談（カウンセリング）の進め方 第10回：状況に応じた対応①：不登園、不登校への対応 第11回：状況に応じた対応②：いじめ、非行、学級崩壊への対応 第12回：状況に応じた対応③：発達障がいへの対応 第13回：状況に応じた対応④：虐待への対応 第14回：教育相談の計画と組織、校内研修 第15回：授業のまとめ：全体の復習とまとめ、課題レポート等の提出			
テキスト 授業者が作成したレジュメに沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等 授業中に参考資料を配付			

齋藤学（アダルトチルドレンと家族）、杉山登志郎（発達障害の今）、岡田尊司（愛着障がい）、米澤好史（愛着修復プログラム）

学生に対する評価

配付資料への記録（40%）、毎回のミニレポートや課題レポートの内容（40%）、授業への積極的な取組状況（20%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職・保育実践演習（幼）		単位数：2単位	担当教員名：三井真紀		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数	30人				
教員の連携・協力体制 保育・幼児教育専攻の他の教員5名は、適宜サポーターとして授業に関与する。					
授業のテーマ及び到達目標 ①幼稚園教諭・保育士として備えるべき姿勢や心構え、使命感等の基本的事項を理解する。 ②幼稚園教諭・保育士として備えるべき基礎的な指導力を身につけ、実践することができる。 ③幼稚園教諭・保育士として備えるべき社会性や対人関係能力について理解し、演習を通して身につける。 ④保育・幼児教育に関する現代的課題について分析、考察、検討することができる。					
授業の概要 履修カルテを参照しながら、これまでの教職課程の履修や各実習を全体的に振り返る。そして、幼稚園教諭・保育士として求められる以下の4つのテーマについて各自の達成度や課題を洗い出し、不足していると思われる知識や技能を補い、実践力を身につけ教員として働くための準備とする。また保育・幼児教育を取り巻く現代的課題について演習やICT機器の活用をとおして現状分析し、多様な視点から考察する力を身につける。なお、講義では毎回レポートの提出を求める。 幼稚園教諭・保育士として求められる事項 ①幼稚園教諭・保育士の意義や役割、使命感、責任感等 ②幼稚園教諭・保育士に求められる社会性、対人関係能力 ③子どもやその家庭の理解と支援の展開、職員間・関係機関との連携 ④教科、保育内容等の指導力、学級経営等					
授業計画 第1回：オリエンテーション これまでの学びを振り返りと自己の課題の明確化 第2回：教職課程履修の意義や教員の職務・社会的責任の理解 第3回：幼稚園教諭・保育士の役割と幼児に対する基本姿勢の理解 第4回：求められる幼稚園教諭・保育士像（保育協会の説明） 第5回：子どもと子育て家庭の理解 第6回：子どもと子育て家庭への支援—ICTの有効活用とその目的について— 第7回：保育内容の指導力①保育における指導とは何か 第8回：保育内容の指導力②指導における留意点 第9回：保育内容の指導力③指導案の作成の目的と方法 第10回：保育内容の指導力④指導案作成における留意点 第11回：保育内容の指導力⑤保育指導とICT活用 第12回：保育内容の指導力⑥保育指導とPDCAサイクル 第13回：対人関係能力と職員間の連携、ICT機器の活用 第14回：関係機関との連携のあり方 第15回：まとめ 定期試験					
テキスト 適宜資料を配布する。					
参考書・参考資料等					

「保育・教職実践演習」 寺田恭子編著 ミネルヴァ書房 2017

学生に対する評価

テスト（小テスト含む）（50%）・課題（50%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：赤井秀行 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、「今日の学校教育における、教職の意義、教員の役割や求められる資質能力、その職務内容等について考察し、自らの教職に対する適性について判断する中で、教職につく意欲を高めること」をテーマとし、下記の3点を到達目標として設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の社会における教職の意義に関する理解を踏まえ、自分自身の目指す教師像について考え、表現することができる。 2. 教員や学校の社会的役割及び法的責任、他業種との連携の必要性を理解し、教育における今日的課題に対しての自身の考えを表現することができる。 3. 教職を目指すうえでの自身の課題を理解し、今後の学修を通じた資質能力の向上やキャリア形成についての見通しを持つことができる 			
<p>授業の概要</p> <p>教職に関する歴史的経緯、法的環境及び今日的課題への考察を通じ、教職の意義や特徴、教員の役割や求められる資質能力について理解する。また、教員の職務内容について、学校教育全体における教員としての児童への関りのあり方への考察を深めるとともに、いじめ問題や事故・災害等の危機問題への対応についてチームとしての学校運営（他業種との連携を含む）のあり方を検討する。なお本講義においては、場面指導やペア・グループでのディスカッションを随時行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教職の意義－（1）教職の歴史</p> <p>第2回：教職の意義－（2）法制度・社会的責任</p> <p>第3回：教員の役割－（1）小学校教員の1日</p> <p>第4回：教員の役割－（2）学習指導</p> <p>第5回：教員の役割－（3）生徒指導</p> <p>第6回：今日の特別支援教育</p> <p>第7回：学校教育における今日的課題</p> <p>第8回：学び続ける教員とは</p> <p>第9回：学校安全と防災</p> <p>第10回：いじめ問題</p> <p>第11回：幼少連携の必要性とその意義</p> <p>第12回：小中連携の必要性とその意義</p>			

第13回：教育と他の専門家等との連携－（1）児童虐待への取組

第14回：教育と他の専門家等との連携－（2）特別な支援を要する児童への取組

第15回：教員になるということ

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省）

教職論（木山徹哉・太田光洋編著、ミネルヴァ書房、2017）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

講義内容に関するレポート（70％）・毎回の講義に関する振り返り小レポート（30％）

授業科目名： 教育経営学	教員の免許状取得のための 必修科目（小）	単位数： 2単位	担当教員名：緒方宏明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の学校教育に関する社会的、経営的事項についての基礎的な知識を身につけ、それらに関する課題を理解するとともに、学校と地域との連携や学校安全への対応に関する基礎知識を身に付けることができる。			
授業の概要			
教育に関する社会的事項として、学校を巡る状況や子どもの生活の変化に対する教育政策の動向等を学ぶとともに、経営的事項として学校や学級の経営、PDCAサイクルの重要性を学ぶ。さらに教育経営として重要な地域との連携・協働、学校安全への対応のあり方等の認識が深められるよう授業を進める。各回の講話終了後、授業のポイントについてグループワークを行う			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、教育に関する社会的事項①：学校を巡る近年の様々な状況の変化			
第2回：教育に関する社会的事項②：子どもの生活の変化と指導の課題			
第3回：教育に関する社会的事項③：近年の教育政策の動向			
第4回：教育に関する社会的事項④：諸外国の教育事情や教育改革の動向			
第5回：教育に関する経営的事項①：公教育の目的を実現するための学校経営のあり方。			
第6回：教育に関する経営的事項②：教育活動の流れと学校評価におけるPDCAの重要性			
第7回：教育に関する経営的事項③：学級経営の仕組みと効果的な方法			
第8回：教育に関する経営的事項④：教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働			
第9回：学校と地域との連携意義や地域との協働①：地域との連携・協働による教育活動			
第10回：学校と地域との連携意義や地域との協働②：地域との連携による開かれた学校づくり			
第11回：学校安全への対応①：学校管理下における事件、事故の危機管理・事故対応			
第12回：学校安全への対応②：生活・交通・災害の各安全や新たな安全上の課題への具体的取組			
第13回：学校安全への対応における地域との連携・協働①：じめ問題等への危機対応を通して			
第14回：学校安全への対応における地域との連携・協働②：熊本地震等の災害の危機対応を通して			
第15回：授業のまとめ：全体の復習とまとめ、課題レポート等の提出			
テキスト			
授業者が作成したレジュメに沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等			
授業中に参考資料を配付			

堀内孜 編『公教育経営概説』（学術図書出版、加藤崇英他編著）、『教育の組織と経営』（学事出版、小川正人・勝の正章著）、『教育経営論』（日本放送出版協会、その他）

学生に対する評価

配付資料への記録（40%）、毎回のミニレポートや課題レポートの内容（40%）、発表（20%）

授業科目名： 教育法規	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 孝徳 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 現代公教育制度について、法体系や制度的仕組みを学修し、教職への使命感を養うとともに、様々な教育活動を法令に基づいて判断し、説明ができる。</p> <p>② 学校と地域社会の連携、学校の危機管理・学校安全の目的や取組を説明できる。</p>			
授業の概要：全ての学校教育は教育法制度の下で行われている。そこで、教育法体系を学修し、憲法における教育に関する条項と教育基本法との関係についての理解を深める。更に、学校教育と教育関連法規との関係や教育実践との関係について考察する。また、学校現場における事象を法的な根拠から検討し合い、主体的・対話的な学びを通して理解を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 講義の目標、内容、学修の仕方と評価方法、法の体系、形式等			
第2回：教育法規のあらまし、日本国憲法 ・教育法規の体系 ・憲法 ・公教育の原理及び理念等			
第3回：教育基本法 ・教育基本法改正 ・教育の実施に関する基本 ・教育行政の理念と仕組み			
第4回：学校教育法1 ・学校の種類と設置者 ・義務教育 ・教育の目標と各学校の目的等			
第5回：学校教育法2 ・職員とその役割等 ・小中学校等 ・特別支援学校等			
第6回：学校教育法施行令、施行規則 ・学齢簿 ・施設設備 ・教育課程 ・学校評議員			
第7回：地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ・教育行政の理念と仕組み ・教育委員会 ・市町村立学校とその教職員 ・学校運営協議会と開かれた学校づくり			
第8回：教職員の身分、服務、義務 ・地方公務員法 ・教育公務員特例法			
第9回：教職員の任免、研修、人事評価 ・地方公務員法 ・教育公務員特例法			
第10回：教職員の給与と給与負担 ・地方公務員法 ・給与負担法 ・国庫負担法 ・給特法			
第11回：教職員の身分保障、福利厚生、勤務時間 ・共済組合法 災害補償 働き方改革等			
第12回：教職員免許と資格 ・教育職員免許法 免許制度の諸原則・施行規則・免許法の特例法			
第13回：学校保健、安全、学校給食等 ・学校保健安全法及び同施行令、同規則・学校給食法 学校安全管理の必要性と危機管理マニュアル等の具体的取組			
第14回：子どもに関する法規 ・児童の権利に関する条約 ・いじめ防止対策推進法 ・児童虐待防止法 未然防止・早期発見・早期対応の重要性			
第15回：人権教育、教育法規まとめ ・人権教育啓発推進法等、講義内容の整理・定着			
定期試験：学修内容の確認			
テキスト 『熊本県教育関係者必携』 配布プリント資料			

参考書・参考資料等 『小学校学習指導要領解説 総則編』 (平成29年 文部科学省) 『中学校
学習指導要領解説 総則編』 (平成29年 文部科学省)

学生に対する評価

定期試験 (60%)、毎回の授業後のレポート (20%)、課題等の内容 (20%)

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目（小中高）	単位数： 1単位	担当教員名：河田将一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解し例示することができる。</p> <p>②特別支援教育に係る教育課程や支援方法を理解し例示することができる。</p> <p>③特別支援教育の体制整備、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成、他機関等との連携について、その他必要と方法を理解し説明することができる。</p> <p>④母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズに対しての組織的対応の必要性を理解し説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする生徒（幼児児童）が通常の学級にも在籍している現状を踏まえ、当該生徒（幼児児童）が主体的に学習し、生きる力を身に付けていくために、彼らの学習上又へ生活上の困難を理解した上で、個別の教育的ニーズを把握し、園・学校総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：障害特性の理解と支援方法（1）特別支援教育の対象、在籍数、アセスメント等</p> <p>第2回：障害特性の理解と支援方法（2）アセスメントに基づく理解、指導支援に必要なこと等</p> <p>第3回：障害特性の理解と支援方法（3）障害特性を踏まえたUDの視点での指導・支援等</p> <p>第4回：特別支援教育の教育課程 インクルーシブ教育システム、就学先決定プロセスに関する理解</p> <p>第5回：特別支援教育の体制整備 連携、教育課程（特別支援学校・学級、自立活動等の位置づけ）</p> <p>第6回：特別支援教育の体制整備 通級による指導の内容、個別の指導計画・教育支援計画の作成等</p> <p>第7回：知的障害のある児童への特別な教育的対応 各教科等を合わせた指導とその内容等</p> <p>第8回：特別な教育的ニーズの理解と対応、及び総括講義</p> <p>試験（総括レポート）とその振り返り</p>			
テキスト			
毎回、講義データを書き取り又は資料を配布し、1冊のテキストが完成できるようにする。			
参考書・参考資料等			
特別支援教育研究（東洋館出版社：月刊）、実践障害児教育（学研：月刊）、特別支援教育（文部科学省：季刊）など			
学生に対する評価			
自己チェック表による授業態度、ノート・メモの取り方（20%）、毎時間の終了時に行うふ			

り返りの記入内容（30%）、試験（総括レポート課題）の素点（50%）

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡村健太 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義が理解できる。 ・教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程が編成できる。 ・教科・領域・学年を横断する教育課程を理解し、学校教育課程全体をマネジメントできる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、教員として必要な教育課程に関する実践的知識を理解する為、教育課程に関する理論・歴史、学習指導要領、教育課程を取り巻く諸問題等について学ぶ。授業内では、ディスカッション等を交えながら主体的な理解を深めると共に、アクティブラーニングをはじめとする近年の教育課程編成における先進的取り組みについて学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程とは何か①（教育課程の領域と構造）</p> <p>第2回：教育課程とは何か②（カリキュラムの6つの型と経験主義・系統主義）</p> <p>第3回：教育課程の歴史①（明治時代から昭和初期）</p> <p>第4回：教育課程の歴史②（学習指導要領の変遷）</p> <p>第5回：学習指導要領の改訂①（学習指導要領改訂の流れ）</p> <p>第6回：学習指導要領の改訂②（改訂における議論）</p> <p>第7回：学習指導要領の内容①（アクティブラーニング）</p> <p>第8回：学習指導要領の内容②（カリキュラム・マネジメント）</p> <p>第9回：学習指導要領の内容③（教科等横断的な視点）</p> <p>第10回：諸外国の教育課程</p> <p>第11回：教育課程と環境・教室</p> <p>第12回：教育課程の評価</p> <p>第13回：教育課程と学力</p> <p>第14回：教育課程の編成と学習指導案</p> <p>第15回：これからの教育課程とは</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』東洋館出版社（ISBN-10:4491034605）、文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社（ISBN-10:4491034613）。</p>			

参考書・参考資料等

尾崎博美・井藤元編（2018）『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版等。

その他、授業内で適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（55％）、レポート（30％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（15％）

授業科目名：道徳教育 の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡村健太 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目的や内容を説明できる。 ・教育課程における道徳教育と特別の教科道徳の意義及び関係性について説明できる。 ・道徳教育の指導計画や指導方法を理解し、実践できる。 			
授業の概要			
<p>本授業では道徳教育に関して、どのような歴史をもつか、現在が抱える課題は何か、どのような諸理論が生かされているか、どの様に学習指導要領で扱われているか、以上の4点を中心に学ぶ。その上で、指導計画や学習指導案について学び、模擬授業実践と振り返りによる授業改善の実践を行う。</p>			
授業計画			
第1回：道徳とは何か			
第2回：道徳教育の歴史			
第3回：道徳教育の現代的課題①（いじめ・情報モラル等）			
第4回：道徳教育の現代的課題②（考え、議論する道徳教育とは）			
第5回：道徳教育の諸理論①（デュルケムの道徳教育論）			
第6回：道徳教育の諸理論②（コールバーグの道徳性発達理論）			
第7回：道徳教育の諸理論③（道徳教育の方法）			
第8回：学習指導要領における道徳①（道徳教育）			
第9回：学習指導要領における道徳②（特別の教科道徳の目標と内容）			
第10回：学習指導要領における道徳③（特別の教科道徳の指導計画の作成と内容の取扱い）			
第11回：道徳科の指導計画			
第12回：道徳の授業実践①（ねらいに着目して）			
第13回：道徳の授業実践②（活動に着目して）			
第14回：道徳の授業実践③（評価に着目して）			
第15回：これからの道徳とは			
定期試験			
テキスト			
文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』廣済堂あかつき（ISBN-10:4908255350）			

参考書・参考資料等

井藤元（2020）『ワークで学ぶ道徳教育〔増補改訂版〕』ナカニシヤ出版等。

その他、授業内で適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、発表・レポート（45%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（15%）

授業科目名：特別活動 ・総合的な学習の時間 の指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原 孝徳 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標：特別活動・総合的な学習の時間の実践的な指導力の向上をめざす。</p> <p>①特別活動の意義、目標及び各内容の特質を理解するとともに、教育課程全体で取り組む指導の在り方を理解し、その具体的展開案を構想できる。</p> <p>②総合的な学習の時間の目標と、各学校で定める目標や内容、指導計画作成の考え方や留意点を理解し、その具体的展開案を構想できる。</p> <p>③特別活動・総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点等を理解している。</p>			
<p>授業の概要：学習指導要領をもとに特別活動・総合的な学習の時間の目標や教育的意義、内容について教育課程上の位置づけを明らかにする。特別活動・総合的な学習の時間の内容について、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するため、アクティブラーニングの視点から班別協議等で具体的な展開を検討し、模擬授業等で考察を深め、実践的な指導力の向上をめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業計画・学修方法や評価、・教育の目標、学習指導要領改訂の概要</p> <p>第2回：特別活動・総合的な学習の時間 特別活動・総合的な学習の変遷、改訂概要と意義等を整理する。</p> <p>第3回：特別活動の目標と内容、意義 学習指導要領の位置付け、目標と内容、基本的な性格と教育活動全体における意義、各教科等との関連について、検討・整理する。</p> <p>第4回：学級活動（ホームルーム活動）の目標と内容（1） 学級活動の目標、特質、基本的な学習過程、内容（1）の内容と具体的活動例の検討による学習展開を構想し、合意形成に向けた話し合い活動の模擬授業を実施し、評価や改善活動について考察する。</p> <p>第5回：学級活動（ホームルーム活動）の目標と内容（2）（3）内容（2）（3）の具体的指導例の検討による学習指導を構想し、意思決定につながる模擬授業を実施し、評価や改善活動について考察する。</p> <p>第6回：児童会・生徒会活動 目標、内容について整理する。実践例をもとに展開案を作成し、集団活動の意義や指導の在り方を模擬授業で検討する。評価や改善活動について考察する。</p> <p>第7回：クラブ活動 目標、内容について整理する。実践例をもとに展開案を作成し、集団活動の意義や指導の在り方を、模擬授業で検討する。評価や改善活動について考察する。</p> <p>第8回：学校行事 目標、内容について整理する。実践例をもとに指導計画案を作成し、模擬提案で検討する。また、評価や改善活動について考察する。</p>			

第9回：総合的な学習の時間① 学習指導要領での位置付け、目標、内容を定める際の考え方等について整理する。

第10回：総合的な学習の時間② 学校で定める目標や内容、全体計画・年間指導計画作成の重要性を理解する。

第11回：総合的な学習の時間の指導① 学校で定める目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、探究する。

第12回：総合的な学習の時間の指導② 単元計画作成の重要性を理解し、学習指導の基本、探究的な学習過程、考えるための技法などについて整理する。

第13回：総合的な学習の時間の指導③ 指導例を参考に、探究結果をもとに評価計画を含めた単元計画を作成し、班別協議で検討する。

第14回：特別活動・総合的な学習の時間の評価 指導と評価の考え方や留意点について整理する。

第15回：特別活動・総合的な学習の時間のまとめ 充実のための体制づくりや環境整備等について整理し、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を検討する。

定期試験：学修内容の確認、整理

テキスト：小学校学習指導要領解説特別活動編、中学校（Ⅱ）、高等学校（Ⅱ）（平成29.30年7月 文部科学省）、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、中学校（Ⅱ）高等学校（Ⅱ）総合的な探究の時間編（平成29.30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等 適宜紹介する

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業後のレポート（20％）、課題・模擬授業等の内容（30％）

授業科目名： 教育方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：緒方宏明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解すると共に、授業のあり方やその技術を理解し、指導案を作成することができる。また、情報機器を活用した授業や情報活用能力育成の基礎を身につけることができる。			
授業の概要 授業とは何かを、その本質や方法論について学び、具体的な教育の技術を理解して指導案を作成できるようにする。また、情報機器についての基礎的な活用方法について学ぶ。各回の講話終了後、授業のポイントについてグループワークを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業とは何か 第2回：授業とその創造。 第3回：教育課程。 第4回：教育の方法論①：教育方法の基礎的理論と実践。 第5回：教育の方法論②：主体的・対話的な深い学びを実現する教育方法。 第6回：教育の方法論③：授業を構成する基礎的な要件の理解。 第7回：教育の方法論④：学習の評価方法と類型を理解する。 第8回：教育の技術①：話法・板書などの授業の基礎的な技。 第9回：教育の技術②：指導案の考え方と作成 ①単元（題材）について。 第10回：教育の技術③：指導案の考え方と作成 ②評価及び指導計画について。 第11回：教育の技術④：指導案の考え方と作成 ③本時の学習について。 第12回：情報機器の基礎的活用①：文書作成。 第13回：情報機器の基礎的活用②：データ管理。 第14回：情報機器の基礎的活用③：プレゼンテーション。 第15回：情報機器の基礎的活用④と授業のまとめ：電子黒板活用の基礎。			
テキスト 授業者が作成したレジュメに沿って授業を行う。			
参考書・参考資料等 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東洋館出版社 多田俊文編 教育の方法と技術 学芸図書 教員養成基礎教養研究会編 教育の方法・技術 教育出版			

学生に対する評価

配付資料への記録（40％）、毎回のミニレポート（20％）、指導案作成及び情報機器活用の課題（20％）、発表（20％）

授業科目名： ICT活用指導論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：赤井秀行 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、「今日の学校教育に求められる情報通信技術（ICT）活用について、学習指導だけでなく校務等の様々な活用場面を取り上げ、その理論及び意義について考察し、実践的な活用力・指導力の素地を育成すること」をテーマとし、下記の3点を到達目標として設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における今日的背景を踏まえ、ICT活用の意義と理論を理解する。 2. 各教科・領域の特性に応じたICTを活用した学習指導及び、学校現場の実態に即した校務におけるICT活用の推進の在り方について理解する。 3. 児童・生徒に求められる情報活用能力（情報モラルを含む）について理解し、それらを育成するための基礎的な指導法を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における情報通信技術（ICT）活用について、これまでの歴史的経緯、現状、そして今後の方向性について考察する。学習指導における教師・児童のICT活用に加え、教材研究・授業の準備、学習評価及び校務におけるICT活用についても講義の題材として取り上げる。また、学習活動の基盤となり、あわせて今日の情報社会を生きていくために必要とされる資質能力としての情報活用能力について、その構成要素及び、育成のための指導法、教育課程上の位置付けについて講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代社会におけるICTの役割</p> <p>第2回：教育における視聴覚メディア・コンピュータの導入</p> <p>第3回：現代の教育における先端技術</p> <p>第4回：教師に求められるICT活用指導力</p> <p>第5回：対話的な学びを深めるためのICT活用</p> <p>第6回：個別最適な学びを支えるICT活用</p> <p>第7回：遠隔授業・オンライン教育の実際</p> <p>第8回：特別支援教育におけるICT活用</p> <p>第9回：校務の情報化とデータの活用</p> <p>第10回：児童・生徒によるICT活用</p> <p>第11回：プログラミング教育のねらい</p> <p>第12回：情報活用能力の体系的理解とその育成</p>			

第13回：情報モラル・情報セキュリティ教育の重要性

第14回：探究を支える情報活用能力

第15回：学校とテクノロジーのこれから

テキスト

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省）

ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして（稲垣 忠・佐藤和紀編著、北大路書房）

授業中に適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

初等中等教育におけるICT活用（高橋 純・寺嶋浩介著、ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

講義内容に関するレポート（70%）・毎回の講義に関する振り返り小レポート（30%）

授業科目名：生徒指導 論（進路指導を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：城戸申一 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程における生徒指導の位置づけを理解し、教育現場で生徒指導・進路指導の企画立案ができる 2. 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の指導のあり方を理解し、教育現場で生徒指導・進路指導の実務ができる。 3. 生徒指導・進路指導について、専門家や関係機関との連携の在り方を理解し、保護者や関係者との話し合いができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育の今日的課題に対して、生徒指導が教育活動の重要な柱に位置付けられていることを理解し、生徒指導の歴史や変遷を踏まえながら、生徒指導が教育活動全体を通じて行われることを学ぶ。また、指導の法的根拠や方法などについて学校現場の実態を学修し、他の教育機関との連携、問題行動への対応や日常の生徒指導の在り方、ガイダンスやカウンセリングの方法について学ぶ。さらに、進路指導の理念や課題について学修し、キャリア教育の視点に立った必要な知識、素養を身につける。本講義では、アクティブラーニングの視点から、学校現場で実際に起きている問題を課題として設定し、班別協議、意見交換、レポート等を通して学びを深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス及び生徒指導の意義と原理（1） 授業計画、到達目標、評価のやり方等の説明及び生徒指導の概念や生徒指導に求められるものについて</p> <p>第2回：生徒指導の意義と原理（2） 生徒指導の歴史と変遷</p> <p>第3回：生徒指導の理念と性格 生徒指導の位置づけ、意義、基本的性格・組織・年間計画</p> <p>第4回：教育課程と生徒指導 学習指導要領と生徒指導、道徳・特別活動と生徒指導</p> <p>第5回：生徒・児童理解、教育相談 生徒・児童理解、カウンセリングの基礎、専門家等との連携、教育相談のあり方</p> <p>第6回：生徒指導の実際（1） 基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、生徒・児童の居場所</p> <p>第7回：生徒指導の実際（2） 現状と対応：いじめ（資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題データ）</p> <p>第8回：生徒指導の実際（3） 現状と対応：不登校・暴力行為・自殺、SNS（資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題データ）</p> <p>第9回：生徒指導の実際（4） 生徒指導の実践演習Ⅰ（テーマ：集団指導と個別指導）</p> <p>第10回：生徒指導の実際（5） 生徒指導の実践演習Ⅱ（テーマ：ネット社会と生徒）</p>			

第11回：生徒指導の実際（6）生徒指導の実践演習Ⅲ（テーマ：模擬生徒相談） 第12回：生徒指導と法令 校則・懲戒・体罰・退学・停学・出席停止・原級留置 第13回：進路指導と生徒指導（1）進路指導の役割、進路指導のための教育活動、キャリア教育の意義 第14回：進路指導と生徒指導（2）進路指導とキャリア教育におけるガイダンス・カウンセリング 第15回：これまでの統括 講義内容の定着を把握し、課題を整理する 定期試験
テキスト 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年 3月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）、その他配布するプリント
学生に対する評価 課題・レポート（20%）、発表（20%）、定期試験（60%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（小）		単位数：2単位		担当教員名：坂本昌弥	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 40人(4人×10グループ編成)					
教員の連携・協力体制 本科目は、担当教員以外にも本学に所属する公立学校教員経験のある実務家教員、熊本市小学校校長会、熊本市教育委員会と連携して実施する。					
授業のテーマ及び到達目標 1 教育に対する使命感や情熱，高い倫理観や規範意識を持ち子どもと一緒に成長しようとする姿勢を身に付ける。 2 組織人としての自覚を持ち，他の教師や保護者，地域の関係者と良好な人間関係を保つことができる。 3 こどもに公平かつ受容的な態度で接し信頼関係を築きながら規律ある学級経営ができる。 4 教科等の知識や技能など学習指導に必要な基本的事項を身に付け授業計画や学習形態を工夫することができる。					
授業の概要 履修カルテを参照しながら，これまでの教職課程の履修や教育実習を全体的に振り返り，教員として求められる以下の4つのテーマについて各自の達成度や課題を洗い出し不足していると思われる知識や技能を補い，実践力を身につけ教員として働くための準備とする。なお，講義では毎回レポートの提出を求める。 教員として求められるテーマ ① 使命感や責任感，教育的愛情など ② 社会性や対人関係能力など ③ 幼児児童理解や学級経営など ④ 教科・保育内容等の指導力など					
授業計画 第1回：【オリエンテーション[担当:坂本]】教職履修カルテをもとに自己の教育的課題を発見・考察し，教職実践演習における自己の研究課題を策定する。 第2回：【教職の基礎①・グループ活動・討議[担当:坂本]】「求められる教師像を考える」（学級経営，教科指導，組織人としての意識，実務能力とは）。支援教員：実務家教員（小原） 第3回：【教職の基礎②・グループ活動・討議[担当:坂本]】現代的教育課題を理解し，それを解決するために必要な指導法を身につけるため，自己研修のあり方及び日々の過ごし方等について討議・考察する。またICT機器を活用して「主体的・対話的で深い学び」をどのように展開するか，グループごとに事例研究を行い，発表する。支援教員：実務家教員（小原）					

- 第4回：【教職の基礎③・実務家教員講話[担当：栗原・坂本]】心理臨床学科所属栗原教授と共に実施する。別支援教育の現実とその必要性の理解し、変化する特別支援教育（SDGs, 合理的配慮等）に対応することができる教師に近づくために自己の教師としての技能や知識を分析・把握する。
- 第5回：【保護者・教師との信頼づくり①・事例研究[担当：坂本]】教育現場におけるコミュニケーションの必要性の理解と信用失墜行為の事例研究（グループ討議）をおこなう。支援教員：実務家教員（小原）
- 第6回：【保護者・教師との信頼づくり②・事例研究[担当：坂本]】学校における危機管理及び防災教育の必要性の理解と安心安全な学校づくりについての事例研究（グループ討議）をおこなう。支援教員：実務家教員（小原）
- 第7回：【保護者・教師との信頼づくり③・事例研究[担当：坂本]】保護者との信頼関係づくりの必要性の理解と現代の教育課題（ICT機器活用, いじめ, 不登校, 保護者対応等）についての考察をおこなう。支援教員：実務家教員（小原）
- 第8回：【教科指導と生徒指導①・実務家教員講話[担当：城戸・坂本]】教職保育支援センター城戸教授（実務家教員）と共に実施する。外国語教育の理念及び具体的方法についての理解とあり方について理解し、小学校教育活動への外国語教育の取り入れ方について学修する。
- 第9回：【学級経営と児童理解①・ロールプレイング[担当：坂本]】さまざまな場面（始業式, 保護者会, 終業式, 学級会等）での指導法（場面指導）の実際とグループによる討議をおこなう。支援教員：実務家教員（小原）
- 第10回：【学級経営と児童理解②・教育現場視察[担当：坂本]】近隣の小学校における授業参観とそれをもとにした集団討論, および学校経営及び学級経営に関する小学校校長講話をおこなう。支援教員：実務家教員（小原）, 熊本市立清水小学校の教職員〔予定〕。
- 第11回：【学級経営と児童理解③・グループ活動[担当：坂本]】第10回教育現場視察をもとにした課題発見型グループ活動をおこなう。支援教員：実務家教員（小原）
- 第12回：【教科指導と生徒指導②・現役校長講話[担当：坂本・熊本市校長会会長]】主体的・対話的で深い学びができる授業のつくり方に関する示範授業と討論をおこなう〔熊本市小学校校長会会長講話〕。
- 第13回：【教師としての課題発見とその解決・個人面談[担当：坂本・小原・城戸・犬童・赤井・緒方・岡村]】専攻所属教員の協力を得て、教職履修カルテを用いた個人面談を実施し、履修者一人ひとりの持つ教師としての課題発見とその解決法について担当者と考察する。
- 第14回：【教壇に立つ前の考察・自己課題理解[担当：坂本]】教職履修カルテ及び第13回面談による自己課題の具体的改善の策定と実施方法の考察をおこなう。
- 第15回：【まとめ・プレゼンテーション[担当：坂本]】自己課題の具体的改善の策定及び実施についてプレゼンテーション発表をおこなう。

テキスト

その都度必要なものをプリントもしくはデジタルデータとして配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領

学生に対する評価

【40%】授業内容に対する理解，教職履修カルテをもとにした的確な自己分析

【60%】毎回課されるレポート等の内容による教育への理解度，自己課題の克服努力

- ※1 履修カルテを作成し，これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し，「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず，「×」とすること。

授業科目名： 障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：河田将一 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児・者教育の黎明と歴史的変遷について、当時の思想・理念、教育方法の点から説明できる。 ・ 従来のわが国の特殊教育／現行の特別支援教育の制度化に関する意義と課題を説明できる。 ・ わが国の障害児・者教育の特長と課題を大まかに説明できる。 ・ 世界の障害児・者教育の動向を大まかに説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、世界の障害児・者教育の体制整備の展開にも触れながら、幼児期から青年期のわが国の障害児・者教育（保育を含む）の黎明から今日のインクルーシブ教育までの体制整備の展開について、黎明期からの教育実践を担った人々の考え方や取り組みの内容を概括するとともに、わが国の教育制度の確立、及び現在に至る体制整備の流れについて学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：障害児・者教育の黎明（1）ヨーロッパの中世以前～18世紀（ド・レペ、ハイニッケ、アユイ、セガンの功績）</p> <p>第2回：障害児・者教育の黎明（2）アメリカの変遷（義務就学法～NCLB法までの変遷）</p> <p>第3回：障害児・者教育の黎明（3）フランス・ロシアの黎明（イタール、ヴィゴツキーほかの功績）</p> <p>わが国の障害児・者教育体制整備（1）奈良・平安・江戸前期（座による職業教育、寺子屋での教育ほか）</p> <p>第4回：わが国の障害児・者教育体制整備（2）江戸後期～明治維新时期（楽善会訓盲啞院、瘡啞教場、学制、教育令）</p> <p>第5回：わが国の障害児・者教育体制整備（3）明治後半期（小学校令、取調委員会の設置、私立盲啞学校の増加）</p> <p>第6回：わが国の障害児・者教育体制整備（4）明治後半～大正期（石井亮一夫妻、高木憲次の功績）</p> <p>第7回：わが国の障害児・者教育体制整備（5）明治後半～大正期（盲学校及聾啞学校令、田代義徳・柏倉松蔵の功績）</p> <p>第8回：わが国の障害児・者教育体制整備（6）戦時下・敗戦後（国民学校令、憲法と教育基本法、学校教育法ほか）</p> <p>第9回：わが国の障害児・者教育体制整備（7）1950年代～70年代（特殊教育諸学校・特殊学級の制度的基盤整備ほか）</p> <p>第10回：わが国の障害児・者教育体制整備（8）1970年前後～2000年前後（養護学校義務化、国連サラマンカ宣言ほか）</p> <p>第11回：わが国の障害児・者教育体制整備（9）特別支援教育の成立（平成15年中教審最終報告以降の動向・制度の詳細）</p> <p>第12回：わが国の障害児・者教育体制整備（10）特別支援教育の仕組み（センター的機能、個別の指導計画の作成ほか）</p> <p>第13回：わが国の障害児・者教育体制整備（11）障害児保育の歴史的変遷</p> <p>第14回：他機関との連携とインクルーシブ教育（1）乳幼児健診（母子保健）、医療機関、児童発達支援事業所との連携</p> <p>第15回：他機関との連携とインクルーシブ教育（2）放課後等デイサービスとの連携、通常学級での支援ほか</p> <p>試験（総括レポート）とその振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>配布資料の蓄積により、1冊のテキストが作成されるようにする。</p>			

参考書・参考資料等

「特別支援教育の基礎・基本 2020」独立行政法人国立特別支援教育総合研究所著、ジアース教育新社、2020年

学生に対する評価

毎回提出する小課題の記述内容（40%）、期末試験（総括レポート課題）（60%）

授業科目名：知的障害者の心理・生理・病理 I	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：増本利信 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 知的障害を理解するための心理学的生理学的基礎及び発生要因を理解することができる。</p> <p>2. 知的障害児の感覚、注意記憶、学習、運動機能、コミュニケーションの特徴を理解することができる。</p> <p>3. 知的障害児の健康問題を理解することができる。</p> <p>4. 知的障害とその周辺領域にある発達障害を理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>特別支援教育は、すべての障害のある児童生徒に展開されることに鑑み、本講義では、知的障害の心理学的・生理学的基礎の理解を基盤として、知的障害児が直面する種々の困難さを整理する。加えて知的障害児にまつわる健康問題及び知的障害と併存しやすい発達障害について取り上げることとする。</p> <p>講義においては、学生によるグループワークの場を設けたり、ディスカッションの場を設けたりすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることとする。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション/知的障害とは何かを考える			
第2回：知的障害を理解するための心理学的基礎			
第3回：知的障害を理解するための生理学的基礎			
第4回：知的障害の発生要因			
第5回：知的障害児の感覚機能			
第6回：知的障害児の注意・記憶			
第7回：知的障害児の学習(1)学習理論と読み書き			
第8回：知的障害児の学習(2)知的障害児の数と問題行動への対応			
第9回：知的障害児の運動機能			
第10回：知的障害児の言語・コミュニケーション			
第11回：知的障害児と健康問題(1)肥満と睡眠			
第12回：知的障害児と健康問題(2)食事と口腔機能・てんかん			
第13回：知的障害とその周辺領域(1)学習障害と注意欠如多動性障害			
第14回：知的障害とその周辺領域(2)自閉スペクトラム症と発達性協調運動症			
第15回：振り返り/知的障害とは何かを整理しまとめる			
定期試験			

テキスト
知的障害児の心理・整理・病理 (勝二博亮編著 北大路書房)
参考書・参考資料等
子どもの発達障害事典 (原仁責任編集、合同出版) 障がい特性の理解と発達援助 (昇地勝人他、ナカニシヤ出版)
学生に対する評価
定期試験 (30%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(70%)

授業科目名：知的障害者の心理・生理・病理Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：河田将一 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・周産期から新生児期の知的障害のリスクファクターについて把握することができる。 ・乳幼児期の定型発達と発達の遅れに伴う知的障害との関連を知ることができる。 ・基本的な知的障害、ダウン症等の染色体異常、及びその関連の病理や症候について知り、特別支援教育に役立てることができる。 ・知的障害のある児童等の保護者の障害受容過程と心理について、基本的な理解ができる。 			
授業の概要			
<p>本講義では「知的障害者の心理・生理・病理Ⅰ」を踏まえ、第一に、周産期から新生児期の知的障害のリスクファクターを把握し、乳幼児期の定型発達と発達の遅れに伴う知的障害との関連を知る。第二に、ダウン症等の染色体異常をはじめとする知的障害の心理（発達）特性・病理や症候について知り、発達・心理・生理・病理特性を踏まえた教育・支援に資するようにする。第三に、知的障害のある児童等の保護者の心理についての理解を深め、家庭と協働した支援に資するようにする。</p>			
授業計画			
第1回：周産期から新生児期の知的障害のリスクファクター（1）妊娠高血圧症候群 他			
第2回：周産期から新生児期の知的障害のリスクファクター（2）早産とその要因、修正年齢 他			
第3回：乳幼児期の定見発達と発達の遅れ（1）定型運動発達の理解と知的障害による影響 他			
第4回：乳幼児期の定型発達と発達の遅れ（2）定型認知発達の理解と知的障害による影響 他			
第5回：乳幼児期の定型発達と発達の遅れ（3）定型言語発達の理解と知的障害による影響 他			
第6回：知的障害をもたらす疾病等について 脳症、フェニルケトン尿症 他			
第7回：染色体異常の病理			
第8回：ダウン症の生理・病理と症候			
第9回：ダウン症児・者の発達の理解 運動発達の理解			
第10回：ダウン症児・者の発達の理解 認知発達の理解			
第11回：ダウン症児・者の発達の理解 言語発達の理解			
第12回：知的障害に関連する病理・症候について 他の障害との併存、二次的障害、遺伝負因 他			
第13回：保護者の心理の理解（1）保護者の障害受容過程の理解 他			
第14回：保護者の心理の理解（2）当事者のゲストスピーチからの理解			
第15回：総括講義／総括レポート課題の提示			

試験（総括レポート）の振り返り

テキスト

配布資料の蓄積により、1冊のテキストが作成されるようにする。

参考書・参考資料等

障害・小児病理・発達支援に関する市販書、雑誌

学生に対する評価

毎回提出する省察コメントの内容（40%）、期末試験（総括レポート課題）（60%）

授業科目名：肢体不自由者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本吉菜つみ 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知・病）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由のある人への支援を考える上での基礎となる障害特性について理解し、学校現場等において適切な指導・支援を考案することができるようになることである。心理・生理・病理の特性を踏まえ、自立活動の意義や展開について深く考えることができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、『肢体不自由』に関する心理・生理・病理的な特性の基本的な知識を獲得し、さらに肢体不自由者に対する支援の概略を知ることが目的とする。それにより肢体不自由者に対する理解を深めていくことが目標である。</p> <p>本講義は大きく分けて4つの内容で構成される。</p> <p>(1) 肢体不自由の病理：主に医学的側面からの肢体不自由の理解。特に脳性まひ、筋ジストロフィー、二分脊椎の障害特性について。</p> <p>(2) 肢体不自由の心理：主に心理学的側面からの肢体不自由の理解。知覚、認知、情緒的側面の特性について。</p> <p>(3) 肢体不自由に関わる生理：主に生理学的側面からの肢体不自由の理解。筋、骨格についての基本的な理解。</p> <p>(4) 肢体不自由児への指導・支援：主に教育学的側面から肢体不自由者への指導・支援の在り方についての基礎事項を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由児・者の生活</p> <p>第2回：肢体不自由の原因疾患(1) 脳性まひについて</p> <p>第3回：肢体不自由の原因疾患(2) 筋ジストロフィーについて</p> <p>第4回：肢体不自由の原因疾患(3) 二分脊椎について</p> <p>第5回：身体の仕組みの理解(1) 神経系について</p> <p>第6回：身体の仕組みの理解(2) 骨と筋肉について</p> <p>第7回：身体の仕組みの理解(3) 関節の動きについて</p> <p>第8回：身体の仕組みの理解(4) 典型的な運動発達過程について</p> <p>第9回：肢体不自由者の心理(1) 知覚特性について</p> <p>第10回：肢体不自由者の心理(2) 情緒的側面の特性について</p>			

第1 1回：肢体不自由者の心理(3)	障害受容と障害者役割について
第1 2回：肢体不自由者への支援(1)	肢体不自由児への自立活動(健康の保持・心理的な安定と身体の動き)
第1 3回：肢体不自由者への支援(2)	肢体不自由児への自立活動(環境の把握と身体の動き)
第1 4回：肢体不自由者への支援(3)	肢体不自由児への自立活動(人間関係の形成・コミュニケーションと身体の動き)
第1 5回：肢体不自由者への支援(4)	学校生活における医療的ケア
テキスト	
特に使用しない。	
講義中にプリントを配布する。	
参考書・参考資料等	
『よくわかる肢体不自由教育』安藤隆男・藤田継道(編著)、ミネルヴァ書房	
『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省	
学生に対する評価	
【レポート・小テスト】50%	
・事後学修のレポート(感想・自分で考えたことをまとめたもの)提出状況及び内容	
【最終課題】50%	
最終的なレポート課題の内容について評価する	

授業科目名：病弱者の 心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：島津 智之 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理 に関する科目（中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援学校などにおける病弱児について、病弱児の主要な疾患や病弱児の心理・生理・病理を理解し、適切な支援につなげることができる。			
授業の概要 児童生徒の教育現場において、病弱児の心理、生理、病理を理解しておくことは非常に重要なことである。しかし、一口に病弱児といってもその病理、病態は千差万別で、それに適切に対応することが必要とされている。本科目では、各分野の代表的な疾患について医学・医療、心理の立場から多面的に概説する。			
授業計画 第1回：「病弱児の心理・生理・病理（1）」病気、障害をめぐる動向 第2回：「病弱児の心理・生理・病理（2）」病気の理解（よくみる小児の感染症（1）） 第3回：「病弱児の心理・生理・病理（3）」病気の理解（よくみる小児の感染症（2）） 第4回：「病弱児の心理・生理・病理（4）」病気の理解（呼吸器疾患） 第5回：「病弱児の心理・生理・病理（5）」病気の理解（小児の救急、BLS 実習） 第6回：「病弱児の心理・生理・病理（6）」病気の理解（小児の救急、BLS 実習） 第7回：「病弱児の心理・生理・病理（7）」病気の理解（循環器疾患） 第8回：「病弱児の心理・生理・病理（8）」病気の理解（消化器、肝疾患） 第9回：「病弱児の心理・生理・病理（9）」病気の理解（腎・泌尿器疾患） 第10回：「病弱児の心理・生理・病理（10）」病気の理解（代謝・内分泌疾患） 第11回：「病弱児の心理・生理・病理（11）」病気の理解（アレルギー疾患） 第12回：「病弱児の心理・生理・病理（12）」病気の理解（悪性腫瘍） 第13回：「病弱児の心理・生理・病理（13）」病気の理解（神経・筋疾患（1）） 第14回：「病弱児の心理・生理・病理（14）」病気の理解（神経・筋疾患（2）） 第15回：「病弱児の心理・生理・病理（15）」病気の理解（心身症）			
定期試験			
テキスト 「医療保育 ぜひ知っておきたい小児科知識 改訂第4版」梶谷喬他著、診断と治療社			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

「病弱・虚弱児の医療・療育・教育」（金芳堂）、「標準小児科学」（医学書院）他

学生に対する評価

定期試験（70％）、発表（30％）

授業科目名： 知的障害教育総論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：増本利信 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：肢・病）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 知的障がい（及びその関連のある障がいや疑い）のある幼児児童生徒における、乳幼児期からの支援システムと学校選択の流れについて理解することができる。</p> <p>2. 知的障がいのある児童生徒に対する教育課程とその指導内容について理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>特別支援教育における移行支援や他機関との連携の必要性に鑑み、本講義では、乳幼児期における健康診査等のスクリーニングや障がいの診断・告知のプロセスにはじまり、主として知的障がい者における乳幼児期等の療育（遊びを通じた支援、ADLや基本的生活習慣の指導、個別学習支援など）、学校選択（通常学級、特別支援学級、特別支援学校の内容）、教育課程（各教科、道徳、特別活動、自立活動、領域・教科を合わせた指導、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等の内容）、学校卒業後の進路について学ぶ。</p> <p>講義においては、学生によるグループワークの場を設けたり、ディスカッションの場を設けたりすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることとする。</p>			
授業計画			
第1回：知的障がい幼児の適応援助(1)/障がいの発見と健康診査			
第2回：知的障がい幼児の適応援助(2)/当事者親の会、療育期間とその内容			
第3回：知的障がい幼児の適応援助(3)保育園/幼稚園/認定こども園と統合保育			
第4回：知的障がい幼児児童の適応援助(1)/就学と学校選択(1)			
第5回：知的障がい幼児児童の適応援助(2)/就学と学校選択(2)			
第6回：知的障がい幼児児童の適応援助(3)/就学と学校選択(3)			
第7回：知的障がい児童生徒の適応援助(1)/通常学級、特別支援学級、特別支援学校の学級編成			
第8回：知的障がい児童生徒の適応援助(2)/知的障がい特別支援学校について			
第9回：知的障がい児童生徒の適応援助(3)/知的障がい特別支援学級について			
第10回：知的障がい児童生徒の適応援助(4)/通常学級、特別支援学級、特別支援学校の三者の違い			
第11回：知的障がい児童生徒への指導(1)/知的障害特別支援学校の教育課程			
第12回：知的障がい児童生徒への指導(2)/教科別の指導と各教科等を合わせた指導			
第13回：知的障がい児童生徒への指導(3)/自立活動について(1)			
第14回：知的障がい児童生徒への指導(4)/自立活動について(2)			
第15回：振り返りと知的障がい児童生徒への指導			

定期試験
テキスト 授業資料及びレジュメを配布する。
参考書・参考資料等 知的障害教育総論（太田俊巳、放送大学教材） 特別支援教育の基礎基本2020(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジ・アース教育新社)
学生に対する評価 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート(50%)

授業科目名： 知的障害教育総論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：河田将一 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 知的障害のある幼児児童生徒への支援でのベースとなる支援技法（指導法）の習得と適切な使用ができる</p> <p>2. 得られた知識・技法を関連する障害等にも応用することができる</p>			
授業の概要			
<p>本講義では「知的障害者の心理・生理・病理Ⅰ」「知的障害教育総論Ⅰ」での知見をもとに、知的障害のある幼児児童生徒への指導法の理解と習得を目指し、日々のかかわりの中での実践に活用できるようにしたい。</p>			
授業計画			
<p>第1回：遊びの理解（1）遊戯療法・音楽療法・心理療法としてのアプローチ</p> <p>第2回：遊びの理解（2）教育的側面からの遊びの理解と指導・支援</p> <p>第3回：応用行動分析の考え方の理解（1）学習による行動の生起、三項随伴性の分析 他</p> <p>第4回：応用行動分析の考え方の理解（2）強化刺激と望ましい行動・不適切な行動の強化 他</p> <p>第5回：応用行動分析の考え方の理解（2）正負の強化、強化スケジュール、プレマックの原理 他</p> <p>第6回：応用行動分析の考え方の理解（3）シェイピング、チェイニング、課題分析 他</p> <p>第7回：応用行動分析の考え方の理解（4）順向型・背向型シェイピング、分化強化手続き 他</p> <p>第8回：応用行動分析の考え方の理解（5）消去、カームダウン、レスポンスコスト 他</p> <p>第9回：応用行動分析の考え方の理解（6）嫌悪刺激の随伴提示とそのリスク、記録の取り方 他</p> <p>第10回：環境の構造化と特性への配慮（1）TEACCHの考え方をういた指導・支援 他</p> <p>第11回：環境の構造化と特性への配慮（2）PECS[®]の考え方を踏まえた指導・支援 他</p> <p>第12回：感覚統合の考え方（1）感覚の捉え方の視点の拡大 他</p> <p>第13回：感覚統合の考え方（2）感覚統合の考え方をういた指導・支援 他</p> <p>第14回：組織マネジメント チームアプローチ、SWOT分析をういた対応 他</p> <p>第15回：総括講義／総括レポート課題の提示 第1回～第14回までの学修の再構築</p> <p>試験（総括レポート）の振り返り</p>			
テキスト			
配布資料の蓄積により、1冊のテキストが作成されるようにする。			
参考書・参考資料等			
支援技法に関する市販書、雑誌			
学生に対する評価			
毎回提出する省察コメントの内容（40%）、期末試験（総括レポート課題）（60%）			

授業科目名： 肢体不自由教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原 和弘 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>○肢体不自由教育に必要な教育的支援や教育課程等（自立活動の指導を含む）についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。</p> <p>○肢体不自由特別支援学校現場で児童生徒や保護者と適切に関わることができる。</p> <p>○障がい者観を深めることができる。</p>			
授業の概要			
<p>○肢体不自由教育に関する基礎的な知識を、特別支援学校での教育実践と関連づけながら習得することをねらいとする。</p> <p>○なお、講義においては、学習内容の理解及び考察を深めるために、グループワークやディスカッションや、学修管理システム（Moodle等）を利用した事前・事後学習を求める。</p>			
授業計画			
第1回：「オリエンテーション」肢体不自由教育総論の概要、講義の進め方			
第2回：「肢体不自由教育の歴史①」草創期の肢体不自由教育、肢体不自由教育の発展			
第3回：「肢体不自由教育の歴史②」戦後の肢体不自由教育、肢体不自由教育の現状			
第4回：「特別支援学校における交流及び共同学習について」			
第5回：「肢体不自由教育の実際①」肢体不自由児の学ぶ場、特別支援学校(肢体不自由)における教育活動の概要			
第6回：「肢体不自由教育の実際②」自立活動の指導、意義、基本、内容及び進め方			
第7回：「教育課程の編成①」基本的な考え方(教育課程編成の基本)、障害に応じた教育課程の編成			
第8回：「教育課程の編成②」教育課程に関する法令、特別支援学校学習指導要領、幼児児童生徒の実態に即した教育課程の編成のあり方			
第9回：「ゲストスピーカーによる講義」特別支援学校(肢体不自由)における教育の実際			
第10回：「指導法①」身体の動きの指導内容の解説、各教科の授業における姿勢の援助			
第11回：「指導法②」肢体不自由児のコミュニケーション、AAC、アシスティブテクノロジー			
第12回：「指導法③」学習時の姿勢や認知の特性に応じた指導方法の工夫、各教科における支援			
第13回：「指導法④」重複障がい児に対する自立活動を主とした指導、指導内容			
第14回：「肢体不自由教育のキャリア教育及び肢体不自由教育の今後」肢体不自由教育におけるキャリア教育及び進路指導、新たな取組と今後の課題、インクルーシブ教育システム			
第15回：総復習			

定期試験

テキスト

『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成30年発刊）文部科学省，海文堂出版

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）』（平成30年発刊）文部科学省，ジアース教育新社

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

『肢体不自由教育の基本とその展開』日本肢体不自由教育研究会，慶応義塾大学出版会

『よくわかる肢体不自由教育』安藤隆男・藤田継道（編著），ミネルヴァ書房

『肢体不自由児の教育』川間健之介・西川公司（編著），NHK出版

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業の前後に提出する小レポート（50％）

授業科目名： 病弱教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗原 和弘 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>○病弱教育に必要な教育的支援や教育課程等（自立活動の指導を含む）についての基礎的な知識を理解し、説明することができる。</p> <p>○病弱特別支援学校現場で児童生徒や保護者と適切に関わることができる。</p>			
授業の概要			
<p>○病弱教育に関する基礎的な知識（歴史や病気のある子どもの理解、病気の特性をふまえた学習や生活上の配慮事項、医療や家庭との連携等）を特別支援学校での教育実践と関連づけなが習得することをねらいとする。</p> <p>○障がい児教育等に関する新聞記事等について発表したり、他学生の考えを聞いたりして関心や理解を深める。</p> <p>○講義においては、学習内容の理解及び考察を深めるために、グループワークやディスカッションや、学修管理システム（Moodle等）を利用した事前・事後学習を求める。グループディスカッションの機会を多く設け、学びを他者と共有し、学びを深めていく。</p>			
授業計画			
第1回：「オリエンテーション、病弱教育のあゆみ」シラバス、熊本県病弱教育のあゆみ			
第2回：「病弱児の理解」病弱教育の対象、病弱児の教育の場、病弱児の病気、病弱児の悩みや不安等			
第3回：「教育課程①」病弱教育の意義や教育課程の編成等			
第4回：「指導法①」教科指導上の配慮事項、進度や学習空白の把握、実技を伴う指導、教科書の異なる転校生の指導等			
第5回：「自立活動」自立活動の意義、自立活動の指導の基本、個別の指導計画作成と評価、指導事例			
第6回：「指導法②」重複障害、実態把握、指導目標や指導内容、医療的ケア、医療との連携等			
第7回：「指導法③」筋ジストロフィー、病気の理解や学習・生活上の配慮事項等			
第8回：「指導法④」慢性疾患、病気の理解や学習・生活上の配慮事項等			
第9回：「指導法⑤」不登校、要因、特別支援学校（病弱）に転入してくる不登校経験のある子どもの指導や配慮事項等			
第10回：「指導法⑥」発達障害、行動特性や学習・生活上の配慮事項等			
第11回：「教育と福祉の連携」病気で入院した場合の教育保障、就学手続き、転学手続き、児童相談所等との連携、就学奨励費、教育相談体制等			

第12回：「家族への支援」病気の子供と社会、医療と教育の連携の現状と課題、家庭との連絡方法等

第13回：「病弱特別支援学校の現状」県立黒石原支援学校における学習や生活面、健康安全、進路指導等の内容や課題

第14回：「ゲストティーチャーによる講話」特別支援学校（病弱）における教育の実際と課題

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

「チームで育む病気の子ども」西牧謙吾監修，北樹出版

「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」（平成30年発刊）文部科学省，海文堂出版

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」（平成30年発刊）文部科学省，ジアース教育新社

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

「特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携」全国特別支援学校病弱教育校長会編，ジアース教育新社

「標準「病弱児の教育」テキスト」日本育療学会編，ジアース教育新社

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の前後に提出する小レポート（50%）

授業科目名：発達障害 教育総論(心理等)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：増本利信 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：重複・LD等）		
授業のテーマ及び到達目標 発達障がいのある子どもの心理・生理・病理を理解し、得られた知識を教育・支援の実践に応用することができる。			
授業の概要 発達障がい児（言語障がい・情緒障がい・自閉症を含む）の支援においては、アセスメント等によって、その認知特性、障がい特性を詳細に理解し、長所を活かした支援を尊重しながら、当該児童生徒の二次的障がいにも配慮した支援が重要となる。 本講義では、発達障がいに関する心理・生理・病理について講述する。 講義においては、学生によるグループワークの場を設けたり、ディスカッションの場を設けたりすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることとする。			
授業計画 第1回：発達障がい児の心理・生理・病理(1)/LD児の心理・生理・病理(1) 第2回：発達障がい児の心理・生理・病理(2)/LD児の心理・生理・病理(2) 第3回：発達障がい児の心理・生理・病理(3)/AD/HD児の心理・生理・病理(1) 第4回：発達障がい児の心理・生理・病理(4)/AD/HD児の心理・生理・病理(2) 第5回：発達障がい児の心理・生理・病理(5)/自閉スペクトラム症児の心理・生理・病理(1) 第6回：発達障がい児の心理・生理・病理(6)/自閉スペクトラム症児の心理・生理・病理(2) 第7回：言語障がい児・情緒障がい児の心理・生理・病理(1)及び総括レポートの提示/言語障がい児の心理・生理・病理 第8回：言語障がい児・情緒障がい児の心理・生理・病理(2)及び授業総括/情緒障害児の心理・生理・病理 定期試験			
テキスト 授業資料及びレジュメを配布する。			
参考書・参考資料等 よくわかる発達障害（小野次朗、ミネルヴァ書房） 特別支援教育の基礎基本2020（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート(50%)			

授業科目名：視覚障害 教育総論（心理等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田道広 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標 ○視覚障害児の視機能及び眼疾患と見えにくさについての理解を深める。 ○視機能と眼疾患の理解を基に、様々な視覚障害を補って効果的に学習を進める手立てと教材 教具、補助具の活用について説明できる。			
授業の概要 眼疾患と視機能についての理解を深め、視覚障害（盲及び弱視）を補って幼児が聴覚、触覚及 び保有する視覚などを十分に活用して周囲の状況を十分に把握できるための環境構成と補助具 について詳述する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、視機能の仕組みと視覚障害の定義 第2回：主な眼疾患と視覚障害の程度の把握 第3回：視覚障害児の発達の特徴と支援 第4回：弱視児の視覚認知の発達と学習支援 第5回：見えにくさを補う環境の整備と補助具 第6回：視覚以外の感覚活用と認知 第7回：触覚での認知と理解 第8回：ボディイメージの形成と環境の理解 定期試験			
テキスト 新・視覚障害教育入門 青柳まゆみ 鳥山由子 編著 ジアース教育新社			
参考書・参考資料等 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実 に向けて～ 2021年 文部科学省			
学生に対する評価 発表及びレポートの提出 50% テスト 50%			

授業科目名：聴覚障害 教育総論(心理等)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：中島 徹 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目（中心領域：聴）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の聴覚機構の構造と各部位を説明できる。 2. 聴覚機構の損傷部位との関係で難聴の種類を説明できる。 3. 基本的な聴力検査の種類と役割を理解できる。 4. 母音や子音の基本的な音響的特性を説明できる。 5. 話しことばの聞き取りの心理学的過程を説明できる。 			
授業の概要			
<p>聴覚の生理・病理、並びに聴覚障害の心理について学修する。</p> <p>まず、聞こえのしくみとその病理について学修する。続いて、聴覚を活用する教育に必須となる聞こえの評価の方法を学修する。その際、オーディオメータを用いた動画等を活用して検査方法などを理解する。最後に、話しことば（音声言語）の聞き取りの心理学的過程を、音声の音響的特性及び聴覚中枢での言語処理の側面から学修する。</p>			
授業計画			
第1回：聞こえ、音、音声とは何か			
第2回：聞こえのしくみ（生理・病理（1））			
第3回：難聴の種類と聞こえの特徴（生理・病理（2））			
第4回：聞こえの評価（1）			
第5回：聞こえの評価（2）			
第6回：聞こえの評価（3）			
第7回：聞こえの心理			
第8回：振り返り			
定期試験			
テキスト			
『改訂版聴覚障害教育の基本と実際』中野善達・根本匡文編著、田研出版、2008年			
参考書・参考資料等			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『聴覚障害の心理』中野善達・吉野公喜編著、田研出版、1999年 2. 『改訂版 聴覚障害児の言語指導：実践のための基礎知識』我妻敏博、田研出版、2011年 3. 『聴覚障害教育の手引き：聴覚を活用する指導』文部省、海文堂出版、1992年 4. 『聴覚障害教育これまでとこれから：コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に』脇中起余子、北大路書房、2009年 			

5. 『教師と親のための補聴器活用ガイド』大沼直紀、コレール社、1997年
6. 『特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』文部科学省、開隆堂、2018年
7. 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』文部科学省、開隆堂、2018年
8. 『手話の心理学入門』長南浩人、東峰書房、2009年
9. 『身振り語の心理』ヴント、福村出版、1985年（原典は1900年）
10. 『視覚言語の世界』斉藤くるみ、彩流社、2003年
11. 『言語の脳科学：脳はどのようにことばを生み出すか』酒井邦嘉、中公新書、2002年
12. 『きこえているのにわからない：APD[聴覚情報処理障害]の理解と支援』小渕千絵・原島恒夫、学苑社、2016年

学生に対する評価

講義終了時に行う振り返りカードへの記入・提出（40%）、課題・レポートまたは定期試験（60%）

授業科目名：重複障害 教育総論（心理等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：栗原 和弘 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目（中心領域：重複・LD等）		
授業のテーマ及び到達目標 重複障害児(者)の全体像を把握し、心理・生理・病理の観点から特性を述べるができる。 重複障害児に関わる際の要点を、心理・生理・病理の観点から述べるができる。			
授業の概要 本講義では、重複障害児教育の目標・方法・内容について学ぶ。特に、重複障害児（者）の 特性を、心理・生理・病理に関する基礎的な知識を理解するとともに、教育現場で求められる 基本的な対応の要点について学ぶ。併せて「障がい」（障がい状況）の捉え方と関わりの在り 方の基本となる障がい者観について学ぶ。 また、講義においては、学習内容の理解及び考察を深めるために、グループワークやディス カッションや、学修管理システム（Moodle等）を利用した事前・事後学習を求める。 なお、本科目と重複障害教育総論（教育課程等）は連続履修すること。			
授業計画 第1回：「重複障害児の概念と定義」重複障害（発達障害を含む）、重度・重複障害、重症心身障 がいの概念と定義、大島の分類等、 第2回：「重複障害児の特性と課題(1)」重複障害児自身が有する問題(1)(心理面を中心に)、重複障害 児の一般的行動特性など（発達障害を含む） 第3回：「重複障害児の特性と課題(2)」重複障害児自身が有する問題(2)(心理面を中心に)、コミュ ニケーションの特性など（発達障害を含む） 第4回：「重複障害児の特性と課題(3)」重複障害児自身が有する問題(3)(生理面を中心に)、健康管 理のバロメーターなど 第5回：「重複障害児の特性と課題(4)」重複障害児自身が有する問題(4)(病理面を中心に)、 脳性疾患に伴う症状への対応法、医療的ケアなど 第6回：「新旧の障がい者観の比較と当事者とかかわる周囲の課題(1)」これまでとこれからの障がい 者観の比較など（発達障害を含む） 第7回：「新旧の障がい者観の比較と当事者とかかわる周囲の課題(2)」ICFの理論を活用した児童 生徒理解と対応法など（発達障害を含む） 第8回：まとめ 定期試験 テキスト 「特別支援学校における重度・重複障害児の教育 第4版」姉崎弘，大学教育出版			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

「特別支援学校 幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領」及びその解説，（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂他

「障害を持つ子が育つということ」野辺明子・加部一彦・横尾京子・藤井和子編，中央法規出版

「障害を持つ子を産むということ」野辺明子・加部一彦・横尾京子編，中央法規出版

「障害のある子供の教育支援の手引き」文部科学省

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業の前後に提出する小レポート（50％）

授業科目名：発達障害 教育総論(教育課程等)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：増本利信 担当形態：単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：重複・LD等）		
授業のテーマ及び到達目標 発達障がいのある子どもの教育課程・指導法を理解し、得られた知識を教育・支援の実践に 応用することができる。			
授業の概要 発達障がい児（言語障がい・情緒障がいを含む）の支援においては、アセスメント等によっ て、その認知特性、障がい特性を詳細に理解し、長所を活かした支援を尊重しながら、当該児 童生徒の二次障害にも配慮した支援が重要となる。 本講義では、発達障がいに関する教育支援について、教育課程、支援体制や教材開発にも着 目して学習できるようにする。 講義においては、学生によるグループワークの場を設けたり、ディスカッションの場を設け たりすることにより、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることとする。			
授業計画 第1回：発達障がい児の教育課程・指導法(1)/LD児・AD/HD児の教育的支援(1) 第2回：発達障がい児の教育課程・指導法(2)/LD児・AD/HD児の教育的支援(2) 第3回：発達障がい児の教育課程・指導法(3)/LD児・AD/HD児の教育的支援(3) 第4回：発達障がい児の教育課程・指導法(4)/自閉スペクトラム症児の教育的支援(1) 第5回：発達障がい児の教育課程・指導法(5)/自閉スペクトラム症児の教育的支援(2) 第6回：言語障がい児・情緒障がい児の教育課程・指導法/言語障がい児・情緒障がい児の教育的支援 第7回：発達障がい・言語障がい・情緒障がいの教育体制のまとめ 第8回：振り返り 定期試験			
テキスト 授業資料及びレジュメを配布する。			
参考書・参考資料等 よくわかる発達障害（小野次朗、ミネルヴァ書房） 特別支援教育の基礎基本2020(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジース教育新社)			
学生に対する評価 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート(50%)			

授業科目名：視覚障害 教育総論（教育課程等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉田道広 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：視）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>視覚障害教育の概要と今日までの歴史，視機能及び眼疾患，見えないこと，見えにくいことを補う指導の手立てについて理解を深める。</p> <p>○視覚障害教育の歴史を踏まえながら現在の教育の概要を説明できる。</p> <p>○様々な視覚障害を補って効果的に学習を進める手立てについて説明できる。</p> <p>○視覚に障害のある幼児の自立活動の指導に関する具体的指導内容を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、特別支援学級（弱視）や盲学校（視覚障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校）での特色ある教育を含め、視覚障害教育の現状及びその歴史について理解を図る。さらに、視覚障害（盲及び弱視）を補って児童生徒がよりよく学ぶための環境と様々な教材教具，補助具について詳述する。さらに、自立活動の具体的な指導内容の設定手順を踏まえて視覚障害を補う指導の工夫を考察することで具体的な理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション，視覚障害教育の歴史と現状</p> <p>第2回：特別支援学級（弱視）と盲学校の概要と教育の対象</p> <p>第3回：各教科等の指導での配慮事項</p> <p>第4回：見えにくさを補う補助具と教材を活用した指導</p> <p>第5回：盲児への支援の基本を踏まえた指導</p> <p>第6回：点字とその指導</p> <p>第7回：各種教材とICT機器の活用した指導</p> <p>第8回：振り返り</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>新・視覚障害教育入門 青柳まゆみ 鳥山由子 編著 ジアース教育新社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特別支援学校教育要領（平成30年発刊）文部科学省</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年発刊）文部科学省</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）（平成30年発刊）文部科学省</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年</p>			

発刊) 文部科学省

学生に対する評価

発表及びレポートの提出 50% テスト 50%

授業科目名：聴覚障害 教育総論(教育課程等)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：中島 徹 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：聴）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害教育の歴史的経過や経緯をもとにその目的や役割を理解する 2. 教育の目的を明確にし、聴覚障害教育の視点からそれを具体化できる。 3. 言語指導法の変遷とアプローチの特徴を説明できる。 4. 早期支援と両親援助の重要性を認識する 5. 幼稚部、小学部、中学部、高等部教育を説明できる。 6. 障害認識の学習の意義とその指導の実際を説明できる。 			
授業の概要			
<p>この講義では、聴覚障害教育の歴史的経過や経緯をもとにその目的や役割を確認した後、聴覚障害のある子どもにおいて、その目的を達成する方法を具体的に学修する。そのために、聴覚障害教育で使用されるコミュニケーション手段、言語指導におけるいくつかのアプローチと変遷について学修する。次に、早期からの両親援助の重要性、乳幼児期から学童期にかけての言語指導について、語彙指導、構文指導などの具体例をとりあげながら学修する。さらに、自立活動における障害認識にかかわる指導、中等教育以降の移行支援の諸問題について学修していく。</p>			
授業計画			
第1回：聴覚障害教育の歴史と現状、目的（1）			
→江戸、明治、大正、昭和初期における聴覚障害教育の変遷			
第2回：聴覚障害教育の歴史と現状、目的（2）			
→戦後の教育に関する法的整備や聴覚障害児教育の目的や役割			
第3回：教育の目的と教育方法の変遷			
→聴覚障害教育方法の変遷（口話教育・手話教育）			
第4回：言語指導法の変遷			
→言語指導法の変遷（自然法的アプローチ・構成法的アプローチ）			
第5回：早期支援と幼稚部教育			
→聴覚特別支援学校における教育課程（早期支援・幼稚部教育）			
第6回：幼稚部教育と小学部教育			
→聴覚特別支援学校における教育課程（小学部・中学部・重複障害）			

第7回：中学部教育と高等部教育

→聴覚特別支援学校における教育課程（高等部・進路指導）

第8回：振り返り

定期試験

テキスト

1. 『改訂版聴覚障害教育の基本と実際』中野善達・根本匡文編著、田研出版、2008年
2. 『特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』文部科学省、開隆堂、2018年
3. 『特別支援学校学習指導要領解説・総則編（幼稚部・小学部・中学部）』文部科学省、開隆堂、2018年
4. 『特別支援学校学習指導要領解説・各教科等編（幼稚部・小学部・中学部）』文部科学省、開隆堂、2018年

参考書・参考資料等

1. 『改訂版 聴覚障害児の言語指導：実践のための基礎知識』我妻敏博、田研出版、2011年
2. 『改訂版 一人ひとりのニーズに応える保育と教育：みんなで進める特別支援』聖徳大学特別支援教育研究室編、聖徳大学出版会、2014年
3. 『聴覚障害教育 これまでとこれから：コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に』脇中起余子、北大路書房、2009年
4. 『365日のワークシート：手話、日本語、そして障害認識』全国聴覚障害教職員協議会、全国聴覚障害教職員協議会、2011年

学生に対する評価

講義終了時に行う振り返りカードへの記入・提出（40%）、課題・レポートまたは定期試験（60%）

授業科目名：重複障害 教育総論(教育課程等)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：栗原 和弘 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：重複・LD等）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>○「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の概要と「自立活動」の意義について述べる ことができる。</p> <p>○重複障害児（者）との関わりの要点はコミュニケーションであるということを述べる ことができる。</p> <p>○共生社会の担い手としての自己の在り方を述べることができる。</p>			
授業の概要			
<p>○重複障害児教育の目標、内容、方法について学ぶ。</p> <p>○重複障害児教育の歴史を概括し、学校教育法等の法令や学習指導要領に基づいて重複障害 児教育の教育課程について、自立活動を中心とした編成と指導・支援の在り方について学ぶ。 また、学習支援者として相互障害状況の考えに立った支援の在り方についても学ぶ。映像や ゲストスピーカーの講話を通して、指導の実際を実体験する。</p> <p>○さらに、具体的な教材にも触れながら重複障害児（者）とのコミュニケーション支援の基 礎について学習する。</p> <p>○また、障害の重さばかりにとらわれるのではなく一人のヒトとして関わる重要性につい て理解するとともに、講義においては、学習内容の理解及び考察を深めるために、グル ープワークやディスカッションや、学修管理システム（Moodle等）を利用した事前・事後 学習を求める。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「重複障害児童生徒の指導の実際」特別支援学校・学級。通級指導教室での指導の概要</p> <p>第2回：「重複障害児童生徒の教育と内容」重複障害児（発達障害を含む）の教育の歴史と実態把握 の観点、課題設定の視点、指導体制及び専門職員との連携</p> <p>第3回：「重複障害児童生徒の教育課程(1)」重複障害のある幼児児童生徒（発達障害を含む）に対 する教育課程、重複障害者等に関する教育課程の取扱い</p> <p>第4回：「重複障害児童生徒の教育課程(2)」自立活動の意義、自立活動の指導の基本、自立活動を主 とした指導</p> <p>第5回：「重複障害児童生徒の教育課程(3)」自立活動の具体的指導内容、自立活動の評価</p> <p>第6回：「重複障害児童生徒の教育と内容(1)」基本的方向性と実態把握の観点、相互交渉と初期学習</p> <p>第7回：「重複障害児童生徒の教育と内容(2)」発達を促す教材のあり方・工夫についてのグル ープディスカッション及び発表</p> <p>第8回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

「特別支援学校における重度・重複障害児の教育 第4版」姉崎弘，大学教育出版

「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」（平成30年発刊）文部科学省，海文堂出版

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（平成30年発刊）文部科学省，開隆堂出版

「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」（平成30年発刊）文部科学省，ジアース教育新社

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

「障害を持つ子が育つということ」野辺明子・加部一彦・横尾京子・藤井和子編，中央法規出版

「障害を持つ子を産むということ」野辺明子・加部一彦・横尾京子編，中央法規出版

「障害の重い子どもの発達理解ガイド」徳永豊・田中信利編，慶応義塾大学出版会

「重度・重複障害教育におけるカリキュラム評価」一木薫著，慶応義塾大学出版会

「障害のある子供の教育支援の手引き」文部科学省

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業の前後に提出する小レポート（50％）